

学園ニュース

富山大学

NO.72

編集 学園ニュース編集委員会 発行 富山大学

平成3年5月31日



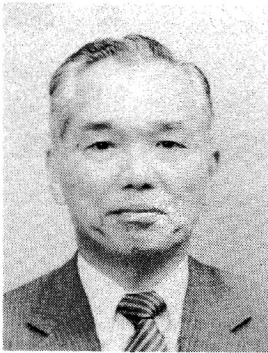
(写真提供・写真部)

目次

平成3年度富山大学入学式告辞	学長	大井 信一	2
新入生諸君へ	教養部長	大谷 重彦	3
学生諸君へ	学生部長	増田 信彦	4
就任挨拶	理学部長	松本 賢一	5
就任挨拶	工学部長	多々 静夫	6
新任教官紹介及び挨拶			7
ドイツ統一選挙の風景	教養部助教授	筒井 洋一	22
細胞膜用顕微偏分光測定装置の開発	工学部助教授	袋谷 賢吉	24
留学感想	外国人留学生(理学部)	FRANCES ESPEDILLA EDILLO	26
1990年度日本フランス語フランス文学会秋季大会について	教養部教授	勝野 良一	27
大学院経済学研究科第1回入学式	経済学研究科長	吉原 節夫	28
教養部だより			31
学生部だより			32
保健管理センターだより			40

平成3年度富山大学入学式告辞

学長 おの 大井 のぶ 信 いち



ただいま、入学を許可されました1,654名にのぼる皆さんは、本学の各学部、大学院及び専攻科へ、めでたく入学された方々であり、本学の教職員一同、心から祝福するとともに歓迎の意を表します。難関を突破してめでたく入学された諸君

や御家族の方々のお慶びはさぞかしと思えます。選ばれた者の幸せと誇りを自覚するとともに、本日の感激を忘れることなく、これから4年間の充実した悔いのない大学生活を送ってほしいと思えます。

さて、大学はこれまで、学術や文化の向上は言うまでもなく、豊かで活力ある社会の形成に様々な寄与をしてきました。今後の流動的かつ不透明な時代においても、学術や文化の継承に努めるとともに、技術革新、国際化・情報化の進展、産業構造の変化等に適切に対処し、社会の各方面で活躍し得る人材の養成に努めていかななくてはなりません。

しかしながら、今日「未来投資」型の高学歴化が進展するなかで、教育の量的拡大による大学の大衆化とともに、学生の質の低下や大学のレジャーランド化が社会の批判を浴びております。今日の高等教育が直面している問題の一面は、一方では科学技術文明の急速な展開に伴う高度の専門性の要求に対して、他方では、いわゆる大学の大衆化、学生層の増大とその質の多極化への対応という、現実に矛盾した要素を含んでいることでもあります。

大学教育は本来、個々の学生諸君がそれぞれ目的とする専門知識や自己の人格を完成するための広い知識の習得を願う本質的な学習意欲にこたえ、これを助けるものでなくてはなりません。しかしながら、最近の学生諸君の中には、自分で考え、行動し学習に取り組む積極性に欠ける嫌いがあり、教えられるだけで満足する受け身の勉強に終始する傾向が強いのは残念に思います。高校と大学の教育水準を日米間で比較すると正に逆転の構図があると言われております。我が国に比べ米国のハイスクールの教育内容には問題が多いと言われております。教育の個性化の行き過ぎから、数学

や外国語など基礎学力にかかわる科目をほとんど履修せずに卒業してしまう生徒も少なくないようであります。しかし、大学や大学院の高等教育部門となると、米国の国際競争力は圧倒的に優れ、高等教育の水準の高さがはっきりしております。我が国の大学が受験勉強に明けくれた後の息抜きや、厳しい社会へ送り出される前のモラトリアムの場とよく言われるのに対して、米国では大学は本格的な教育体験が始まる場として、また平板な教育しか受けて来なかった高校卒の普通の若者が世界のエリートへと自らの力量を開拓していく魔法の世界として機能しているとまで高く評価されております。こうして、高校卒業時には世界的な学力を誇る我が国の学生も、大学卒業時となると米国の学生に圧倒される逆転現象が見られることは誠に残念であります。大学に入ることだけを目的にした激しい受験競争に疲れた我が国の高校卒業生は大学に入ると活力を失うとともに、繁栄と安定の中で経済的豊かさに馴れて、環境変化に対する耐性の欠乏や、家庭や学校における過保護や干渉による自立の遅れなど若者の間に疲労感や無気力感が広がっているように感じます。同じ世代のうち4割に満たない諸君だけが4年間の大学生活を送る機会をつかんだ幸運に感謝するとともに「何となく過ごす」には、あまりにも貴重な学生時代を、受験勉強でやれなかった多様な視点に立った学問の探求や人間形成に全力を傾注してほしいと思えます。

明日から始まる富山大学における諸君の勉学において、これから1年半の教養課程を如何に有意義に、実り多い履修に終わらせるかがさし当たって諸君と教官との共同作業の最大の目標であります。この間、諸君は学問を通じて広い知識を身に付けるとともに、ものを見る目や自主的、総合的に考える力を養って、幅広い良識を持った、そして独立した人間として自分に責任を負うような、新しい価値観、倫理観を持った社会人としての基礎を確立しなければなりません。特に戦後教育に欠落していると言われる我が国の歴史、文化、社会などについて改めて問い直し、国際化時代に対応して異文化との交流に深い理解を示すためにも、自国のアイデンティティーを明確にすべきだと思います。また活発な課外活動を通じて体を鍛え、心を開き、先輩や同輩との交流によって多くの人間関係を作り自己

の人間形成に努めてほしいと思います。心身ともに充実した教養課程を終え、全員そろって専門へ移行することを期待しています。さて次に、大学院や専攻科に進学した諸君に一言申し添えます。諸君はそれぞれの専攻分野において研鑽を積み、各自の個性と創造性を伸ばしてほしいと思います。今日の科学技術文明の急速な展開に伴う高度の専門性の要求に対して、学部教育のみでは十分な対応は困難であります。与えられた選択肢の中から答えを選ぶのは得意かも知れませんが、既製品の答えがあるかどうか分からない応用問題だと、果たしてどうでしょうか。研究となると応用問題よりも更に先であります。研究とは、何が問題なのかを自分で見つけ、切り開いて答えを見つければなりません。

高度の専門職業人として他日を期するために、一層の学識と広い視野を身に付けることを期待します。申すまでもなく、経済的豊かさの追求のみがいたずらに先行している今日の我が国の状況は必ずしも好ましい環境ではありません。特に、科学・技術の独り歩きから発生しやすい社会的諸問題が今後ますます増大する傾向があります。こうした事態に対応するためには、人文、社会科学及び芸術などの研究や創造を活発にし、バランスのとれた住みよい社会の創設と豊かな人間性の回復を図ることが、21世紀を目指す諸君に期待されております。どうぞ一層の努力をお願いします。

簡単ではありますが、これをもってお祝いの言葉いたします。

新 入 生 諸 君 へ

教養部長 おお たに しげ ひこ
大 谷 重 彦



この稿の想を練っている今は、窓外に残りの花が散り、廊下には教室を探す新入生諸君の若々しいざわめきがあり、早緑に芽吹くユリノキ並木に各サークルの立看板が文字通り林立し、教養部の内外は毎年のことながら一年若返ったような新しい空気に包まれているのを感じる。何事にもせよ「新しい」という事には、それが新しいという理由だけでも、ある種の緊張、期待、不安がつきまとう。「初心忘るべからず」とはこの緊張が持続せぬものであることを裏側から説いた言葉でもあろう。緊張から解放されたいと願うのは人の常だからである。

今この稿を読んでいる諸君は、入学以来すでに二ヶ月ほどが経って、はたしてどのような状態にいるのだろうか。大学生としての勉強態勢や生活条件は整っているだろうか、富山大学という制度・機構の中で自分が占めている現在の立場について明確な自覚が生じているか、教養部生活の一端に触れて諸君の感想はどうであろうか……、諸君に問いかけたいことは多い。

と、ここまで書いて中断したまま、帰宅して漫然とテレビを見ていると、偶然ある大学の入学式風景が映って、リポーターがある新入生に、「大学に入って

何をしますか。」と訊ねた。「遊びます」とその新入生は笑って答えた。その笑いは快活で、皮肉の翳りはないように見えた。私は書きかけたこの原稿を思い出して苦笑せざるを得なかった。「初心忘るべからず」などと書いたが、「遊びたい」というのが初心であれば、事態は逆転して、「初心忘るべし」となろう。だが考えてみれば、受験期に入ってから諸君にとってはその毎日が緊張の連続であった。大学入学はその緊張からの解放でこそあれ、更に新たな緊張を強いるものではないのかもしれない。その観点からすれば、「遊びます」という屈託のない宣言も一応は理解できよう。

既に諸君も感じているように、教養部生活はかなり自由である。履修しようとする科目によっては制度上の制限はあるものの、その制限の範囲内では、履修科目の選択は本質的には諸君の自由に委ねられている。いわゆる「講義もの」はもちろんのこと、毎日の訓練を必要とするゆえに出席を点呼する外国語や体育の授業でさえも、欠席する自由を諸君は持っている。「遊び志向」の新入生にとっては、遊ぶ時間は充分にあるわけである。

ところで、「遊び」とは一元的な定義を許さない多義性を持つ概念である。ある大学の文学部には、ある専攻の主任教授を中心に卒業生の有志が集まり、「シュピールの会」という研究会ができています。

「シュピール」(Spiel)とは「遊び」という意味のドイツ語だが、文学乃至人間研究のテーマともなり、また研究会の名称ともなり得るほどに、「遊び」とは人間生活の中での重要且つ高度な次元の概念であることを、諸君は知ってほしい。この事を詳しく論じる場ではないが、大学生ともなれば、少なくとも軽々しく「私は遊びます」などとは断じて言ってほしくない。

入学式直後の教養部オリエンテーションの場でも述べたように、自由を享受するには確固とした自律性が必要である。自分の事は自分で責任をとる覚悟がない場合、自由はむしろ人を不安にし、或いは人を放埒にし、自由は遂にその積極的な意味を失う。高校の制服を脱ぎ捨てた諸君は、一歩大学の構内を出れば、一般の青年子女と何等変る所のない姿をしているが、その内面において諸君を一般から区別するものは、大学生としての自覚である。諸君の自由は大学生としての自由であり、諸君の遊びは大学生としての遊びである。この自覚を欠けば、当然のことながら、社会は諸君の大学生としての存在を認めないであろう。

もちろん諸君のすべてが「遊び志向」の学生であるはずはない。むしろ強い「専門研究志向」を持つ学生が諸君の大半を占める、と私は信じる。そして、そうした諸君にとってこそ一般教育が大きな意味を持つこ

とは、オリエンテーションで説いたとおりである。それを再言すれば、特定の狭い専門領域に没入する以前に、各自の研究が人間社会に対して持つ意義を多角的に検討して確認し了解すること、いわゆる「研究の為の研究」が結果として人間社会の幸せな発展を阻害する危険を防ぐ為の視野の拡大、これが大学における一般教育の学問上の意義である。更に、学問に対するこうした幅広い客観的な基本姿勢の獲得を通じて、今後一段と複雑になって行く社会の中で適正な判断力を以って行動する為の「英知」を養うこと、これが一般教育のもつ人生上の意義である。この「英知」、これを敢て「教養」と呼んでもよいのではないか。

言うまでもなく、「教養」は一朝一夕に身につくものではない。また、現実の必要性・有用性のみにつまわられていて養えるものでもない。今の諸君にとっては一見無縁と思えるものも、それぞれにその存在理由は有る。その存在理由を尋ねようとする姿勢を持てば、すべての事象と諸君との間に何等かの関りが生じるはずである。そのような姿勢をとるゆとり、ひま、言葉の最も深い意味での「遊び」、これこそが「教養」を養い得る物理的及び心理的基盤であろう。諸君の教養部生活がこの意味で真剣且つ有意義なものであることを希望してやまない。

学 生 諸 君 へ

学生部長 ます だ のび ひこ
増 田 信 彦



このたび、私は学生部長に就任しましたが、この機会に、平常、感じていることを述べてみたいと思います。

わが国では、いまや大学等の高等教育機関への進学率が約36%となり、大学が「大衆化」したといわれております。そのように多くの若者が

進学できるほど社会が裕福になったことは喜ばしいことではありますが、反面、せっかく大学へ進学しながら、目的意識もなく無為に過ごしている学生を多く見かけるのは残念なことであります。長期間の受験勉強に耐えてきた後なので、ある程度の息抜きが必要なことは理解できますが、4年間あるいはそれより長い休息を

とっているように見える学生がいるのはどうかと思われれます。

大学は、いうまでもなく、教育・研究の場であると同時に、学生にとって人間形成の場でもあります。大学における人間形成は学問研究を通して行われるものと、課外活動によるものがあります。クラブ・サークル活動等を通して、知識・経験を体得し、自律性や責任感を養ったり、また、友人を作ることも大切です。

ところで、最近では学生の価値観の多様化を反映して、多種多様なクラブやサークルが存在しております。その中で、練習や規律の厳しいサークルは敬遠され、行きたい時に行けばよいような同好会が花盛りの傾向があります。しかし、あまりに気楽さや楽しさのみを追い求めるのはどうでしょうか。ともかく、個々の学生

がもっと意欲と主体性をもって物事に取り組むことを希望します。

青年時代は自分の生き方を見つめ、考えることにより、人間形成を行うべき時期であり、大学はそれに適した場所の一つと考えられます。そこで、いろいろな制約がありますが、大学は教育研究面での改善を図ることはもちろん、大学や地域において学生の課外活動を促進するために、物心両面にわたり支援をすべきであると考えております。

最後に、交通事故を起こさないように注意を致します。最近の5年間に富山大学の学生が5名も交通事故

で亡くなっていることは大変痛ましい限りであります。それらの多くは学生の過失により引き起こされたものであります。また、それ以上の数の人を交通事故で死亡させたり、後遺症の残るようなけがをさせております。そのような場合、一生、経済的あるいは精神的に重荷を負って生きなければならなくなります。過失の中には、「若気の過ち」で済まされることもあります。交通事故の場合、起きてからでは手遅れで、生命とか一生の問題になることが多いので、車やオートバイなどの運転では、くれぐれも無理な運転をしないでいただきたいと思います。

理学部長に就任して

理学部長 まつもとけんいち
松本賢一



4月1日付で理学部長に就任し、不得意な仕事への不安とそれにとらわれている間もない多忙な日々が始まりました。そして、多くの関係各位の御力添えを受けつつ、小黒前学部長から引き継いだ路を3週間余り歩んだところです。今後と

も関係各位の御助言・御助力をお願いするしだいです。

最初の仕事は、平成4年度版富山大学案内作成について、今年度版のそれにある〔理学部の教育目標と特色〕の検討でした。以下（〔 〕内）にその全文を引用させていただきます。

〔未知の物事に対する好奇心と、それを納得ゆくまで調べ理解しようとする探求心から、純粋な自然科学が生れた。そして、自然界を律する最も基本的な原理や法則を究める学問の研究と教育のために、理学部が設けられた。〕

このような理学の基礎的学問が、今日産業の飛躍的發展をもたらした先端技術開発の原動力となり、さらに主導的役割を果たして、社会に大きく貢献している。その結果、企業では基礎的研究の重要性に対する認識が高まり、理学部出身者に大きな期待が寄せられている。特に、高度な技術を駆使する分野でこの傾向が著しい。

当理学部は、後記のように5学科で構成され、それ

ぞれ特色ある専門教育が行われている。いずれの学科においても、基礎学力とこれに裏づけられた創造性、並びに教官との接触による人格の陶冶が目指されている。さらに、前記のような社会的要請に応えるため、広い視野と応用的能力とをもつ人材育成に努めている。〕

私は、あらためて、これをかかげる責務を想いつつ、深く共感し、これをそのまま継承するとともに理学部新入生に強調することにしました。

4月12日の理学部新入生へのオリエンテーションで、私は次のように「挨拶」しました。

「新しく富山大学理学部の学生となられた皆さんを、私たち理学部教職員一同は心より歓迎します。そして、皆さんが、一般教育課程と専門教育課程を順調に履修し、社会人としてのすぐれた素養と高い専門的能力を修得して卒業されるよう切望します。私たちもそのために力を尽くす所存です。

さて、皆さんは今、どのような入学の感激と誇りをお持ちですか。大学での学び方についてどのようにお考えですか。また、在学中に達成したいどんな目標をお持ちですか。

私が先ず強調したいことは、皆さんが、もし入学への誇りを持ち大学での学び方を早く身につけしっかりと在学達成目標を設定しそれに向かって努力するならば、他のどこにも劣らず自己を成長させることのできる学部—富山大学理学部—に入学されたということです。他の理学部のスタッフから高く評価を受けている

多くの先生方が胸を張って仕事をされています。是非皆さんも入学への誇りを持ち未来に立向かってください。もしも、何かそうさせない想いが受験準備期に植付けられ尾をひいているならば、今ここでそれをきっぱりと捨て去ってください。

つぎに、これまでの進学優先のお膳立てと受身の度合いの強かった学び方から脱皮し、一日も早く、自主的・自発的に目標と修学コースを設定し努力する学び方を身につけるよう訴えます。

そして是非しっかりと受け止めてほしいのは、私達が富山大学案内で公表している、[理学部の教育目標と特色]、即ち、[(全文前記)]、です。即ち、私たちは、皆さんが未知の物事に対する探求心、基礎学力とこれに裏付けられた創造性、人格の陶冶、広い視野と応用的能力等を修学目標の要とし努力することを切望しています。そのための先生方との接触への積極性を私たちは歓迎します。

皆さんが、一般教育課程と専門教育課程を順調に履修し、社会人としてのすぐれた素養と高い専門的能力

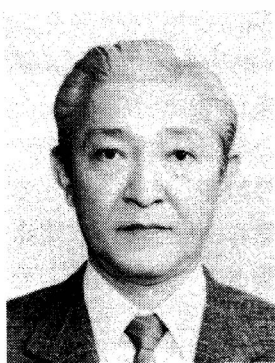
を修得して卒業されるよう繰返し切望し、結びとします。」

さて、前記の[理学部の教育目標と特色]の前半は、また、理学部の研究目標と特色でもあります。ここで、近年のこの分野での成果—多層多様な物質・地球・生命・情報等に関する知見、ビッグバンに始まる宇宙と物質の進化・形成や地球と生命の進化・発展等に関する知見等々—の文化と文明に於ける意義を強調したいと思えます。

科学・技術が政治・経済の益々大きな動因となりそれ故にまた政治・経済に益々深く組み込まれてゆく必然的過程が、世界的規模で、進行しています。科学・技術の基礎学部である理学部はもちろん大学全体もこの過程に包摂されざるを得ず、むしろその要の位置に組み入れられていくことになるでしょう。これが学部や大学の教育・研究やその組織のあり方の検討を迫る—拡充整備に際しては尚更そうである—客観的要因と思えます。要の位置に相応しい権威とそのための私たちの主体的で前向きな努力の必要性を強く感じています。

工学部長就任のご挨拶

工学部長 た だ し ず お
多 々 静 夫



この度、前作道工学部長のあとをうけて4月2日から工学部長に就任致しました。

さて、今年は年明け早々に湾岸戦争が始まったり、いまなお経済摩擦等々で日本のおかれている環境は何かと厳しい状況にあることは衆知の通りであります。

このような状況下において日本の経済を支えるものは工業であり、科学技術の進展しか道が無いように思われます。幸い我が国の科学技術の進展は非常に目覚ましいものがあり、自動車産業や電子産業はもとより他の多くの生産技術分野においても先進国をリードし、今日では世界の工業国を凌駕するまでになりました。

その結果我が国の経済規模はアメリカに次いで世界第2位、GNPは第1位の地歩を築き上げてきました。しかし、これらの大事業は明治の初期以来我々の先人が先進諸外国から技術を学び習得し、それら輸入技術

を改良あるいは応用することによってもたらされたもので我が国独自で開発された技術は極めて少ない。

近年は特に我が国の国際的立場から技術指導、技術援助で改良技術や応用技術をどんどん発展途上国へ移転され、これら発展途上国は工業国としての地歩を一步一步着実に進展させてきています。

このようなことから、我が国の産業基盤を従来の単なる輸入技術の改良あるいは応用による大量生産型の産業構造から脱却しなくてはなりません。そして先端科学技術の開発、発展による新たな産業構造を考えてゆくことは勿論のこと、創造性豊かな独自の新しい技術の開発を目指してゆかねばなりません。

富山大学工学部においても科学技術の著しい発展や教育改革に対する社会的要請をふまえて教育、研究体制の在り方を常々考えてきたし、当然今後も考えてゆかねばなりません。その一つの表れが平成元年、2年と2年にわたり実施した工学部学科改組であります。

この改組によって幅広い基礎学力と応用展開能力を身につけた創造性豊かな技術者と、時代の要求に順応

してゆける学際的領域の技術開発を推進できる研究者を育成したいという願いが込められております。

そして、更に高度の技術者、研究者を育成するために現在工学部は大学院工学研究科修士課程の改組と博士課程の設置を目指し、教職員一丸となって努力している最中であります。

しかし、ここに大きな問題点があるように思われます。それは、いろいろな方が言っておられるように、現在は情報過多の時代であるがために価値観が多様化してしまい興味の対象が分散し、何事もそこそこの感覚で過ごしてしまうことから見切りをつけるのが早いということです。言い換えれば情報があまりにも多くて何を目標、目的にすれば良いのか解らなくなってしまう、適当にあれにもこれにも手を出してみるが真の目標、目的が明確でないため、すぐに他のものが良いように見えて乗り換えてしまい、どれもこれも身につかず終わってしまうということです。

そこで学生諸君にいま一度考えてみて戴きたいこと

は、自分の進むべき目標、目的が自身の心の中にしっかりと把握されているかどうかを確認してみたいわけですね。

現在、東北大学長をしておられる西沢潤一先生にお逢いする機会があり、その折りに先生の座右の銘をお聞かせ下さいと申し上げたら先生は「愚直一徹」という言葉を座右の銘にしていると言われ、色紙にこの言葉を書いて下さいました。この言葉の意味は、他人が愚かなことをしていると笑っても、自分が考えて信ずることを一生懸命頑張る努力すれば必ず事が成就するということです。

どうか学生諸君におかれては将来の目標、目的をしっかりと把握し、「愚直一徹」己の信ずるところを邁進し、21世紀の我が国の科学技術立国を担ってゆく立派な技術者として活躍される地歩を築き上げて戴きたいと心から念願して就任のご挨拶に代えさせていただきます。

..... 新 任 教 官

田 村 俊 介 講師（人文学部）3. 4. 1
昭63. 4 京都大学大学院文学研究科
博士後期課程単位取得退学
担当：国文学

大 森 克 史 助教授（教育学部）3. 4. 1
昭51. 3 早稲田大学大学院理学研究科
修士課程修了
理学博士
担当：物質科学

内 藤 亮 一 講師（教育学部）3. 4. 1
昭62. 3 名古屋大学大学院文学研究科
博士後期課程単位取得退学
担当：英米文学

居 林 次 雄 教授（経済学部）3. 3. 1
昭35. 3 一橋大学大学院法学研究科
修士課程修了
担当：企業関係法

瀧 敦 弘 講師（経済学部）3. 4. 1
平元. 3 京都大学大学院農学研究科
博士課程（後期）満了
担当：政策科学

櫻 井 醇 児 教授（理学部）3. 4. 1
昭39. 3 京都大学大学院理学研究科
博士課程修了
理学博士
担当：固体物理学

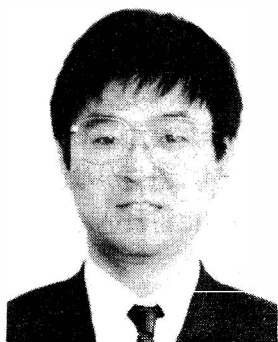
黒 田 英 世 助教授（理学部）3. 4. 1
昭48. 3 名古屋大学大学院理学研究科
博士課程修了
理学博士
担当：環境生物学

平 井 美 朗 助教授（理学部）3. 4. 1
昭52. 3 東北大学大学院薬学研究科
博士課程修了
薬学博士 担当：天然物化学

小田島 仁 司 平 3. 3	助手（理学部）3. 4. 1 東京大学大学院理学系研究科 博士課程修了 理学博士 担当：電波物理学	星 野 一 宏 平 2. 3	助手（工学部）3. 4. 1 新潟大学大学院自然科学研究科 博士課程修了 学術博士 担当：生物プロセス工学
北 野 博 巳 昭56. 1	助教授（工学部）3. 4. 1 京都大学大学院工学研究科 博士課程修了 工学博士 担当：生体分子化学	佐 山 三千雄 平 2. 3	助手（工学部）3. 4. 1 富山医科薬科大学大学院薬学研 究科博士後期課程修了 薬学博士 担当：生体分子化学
小 平 憲 一 昭55. 3	助教授（工学部）3. 4. 1 金沢大学大学院医学研究科 博士課程修了 医学博士 担当：細胞工学	二 村 文 人 昭58. 3	助教授（教養部）3. 4. 1 東京都立大学大学院人文科学研 究科博士課程単位取得退学 担当：文学
小 出 眞 路 平 2. 12	講師（工学部）3. 4. 1 名古屋大学院理学研究科 博士課程後期課程修了 理学博士 担当：計算機工学	藤 田 正 春 昭58. 4	助教授（教養部）3. 4. 1 筑波大学大学院教育学研究科 博士課程単位取得退学 担当：日本語・日本事情
塚 田 章 昭62. 3	助手（工学部）3. 4. 1 富山大学大学院工学研究科 修士課程修了 担当：電気システム工学	宮 内 伸 子 平 3. 3	講師（教養部）3. 4. 1 東京都立大学大学院人文科学 研究科博士課程中退 担当：ドイツ語
酒 井 充 昭56. 3	助手（工学部）3. 4. 1 富山大学大学院工学研究科 修士課程修了 担当：計算機工学	ANKER Georg Josef 1982.8	外国人教師（人文学部） リスボン大学文学部卒業 文学博士 （インスブルク レオポルト・フ ランツ大学） 担当：ドイツ語
米 山 嘉 治 昭56. 3	助手（工学部）3. 4. 1 富山大学理学部卒業 担当：生物反応化学		

新任の御挨拶

人文学部講師 田村 俊介



人文学部語学文学科国語国文学コース専任講師としてこのほど着任いたしました。大学で授業するのは初めてで何かと至らぬ点があるかと思いますが、どうかよろしくお願ひします。

簡単に経歴を言ひます。

生まれは東京。小学校、中学校はずっと地元の公立で、高校時代三年間だけ私立成蹊学園で過ごしました。一年間の予備校通ひのあと、京都大学文学部入学。高校時代から桑原武夫に傾倒し、予備校の時には数学の広中博士の講演も聞いていたのですが、実際に入学してみても平安文学研究には本当に恵まれた環境でした。大学院修士課程に入る時にも一年浪人し、従って平成三年三月がちょうど博士課程満期でした。

富山の第一印象は時間的にも空間的にもゆったりしていることです。現に、これを書いている国文第二研も一人ではもったいないほどで、何といつても眺めが良い。そういえば、3勝1敗で首位を走っている(いた?)中日ドラゴンズ。どうせならこの窓から活躍の様子を見たいものだ、早くも心待ちにして居ります。

高校時代には宮本輝の「蜚川」を二時間立ち読みして本屋の店員に怒られた経験があります。「蜚川」は第一章、第二章……という数字の代わりに、「雪」「桜」「蜚」、三つの小見出しを立てています。『古今集』以来の伝統的な季節感に従わず敢えて冬を始めにもってくる小説構成はいかにも富山らしいのかなと合点して居りましたが、よく考えてみると、私自身、3月14日、「雪」の中初めて来訪し、4月12日、「桜」満開の中、コースのコンパに出席し……、あとは「蜚」いかのおいしいのを食べたいものです。

教育学部助教授 大森 克史



4月1日付けで、教育学部情報教育課程(環境情報コース)に着任致しました。本学には、昭和49年3月に文学部理学科(数学)を卒業して以来、17年ぶりにお世話になることになりました。この3月まで富山商船高専に15年間勤務し、応用数学、数理工学、

情報処理等を担当してきました。

専門は数値解析学で、簡単に言ひますと、理工学分野に現れる数学的問題をコンピュータを使って解くための手法の開発、近似解の誤差評価や収束性を論ずる応用解析学の一分野です。その中でも、流れ問題の有限要素解析を主に研究しています。

数値解析学はコンピュータの進歩と共に発展してきた分野ですが、最近はその内容も多岐にわたってきており、一言で表現するのは難しく、リンカーンのかの有名な言葉にならって、(1)「数値的手法の解析」、(2)「数値的手法による解析」、(3)「数値的手法のための解析」という三つの側面から捉えるのが正確な様です。特に、(2)のアプローチは数値シミュレーションと呼ばれ、さまざまな分野に応用されています。

数値シミュレーションは、問題とする現象を(偏)微分方程式で数理モデル化し、それをコンピュータで数値的に解く技法ですが、本環境情報研究室では、本手法を環境汚染問題や地震に伴う津波等の自然現象の解析に応用し、環境の変化の予測に役立てたいと思っています。また、画像処理技術を応用したりリモートセンシングによるグローバルな環境測定にも取り組むつ

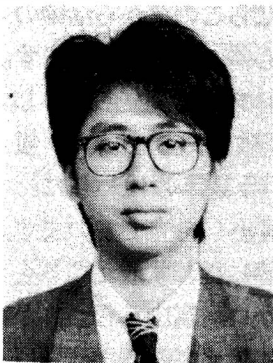
もりです。しかし、環境問題そのものは専門でないので、諸先生方にいろいろと教えていただき、頑張る所存でおりますので、よろしくお願い致します。

長い間、高専に勤務していたので、まだ大学の自由

な気風になじんでいませんが、少し落ち着いて来ましたら、健康のためスポーツで汗を流すなど、バランスよく教育と研究に打ち込みたいと思っております。

何卒よろしくお願い致します。

教育学部講師 内 藤 亮 一



今年の4月1日に教育学部英語科講師として着任いたしました。専門は英文学で、特にシェイクスピアを中心に勉強しております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

これまでは名古屋の私立の短大で4年間、英語と英文学を担当してまいりました。着

任した当初は規模と雰囲気の違いに、いくらかとまどいも覚えましたが、周りの教職員の方からいろいろと親切にいただき、大変ありがたく思っています。

研究室の窓から母校に似た外の並木道を眺めたり、日暮れ過ぎ時折学生の話し声が下の方から聞こえてきたり、また特に夕方生協で食事を取ってから、研究室に戻ってきたときなどには、大学院時代が懐かしく思い出されます。

初めて富山県を訪れましたのは、大学院に入った最初の年だったと思います。その年に利賀村で、第1回

世界演劇祭が催されたからなのですが、穏やかな山々に囲まれたその地で、あたかも桃源郷に紛れ込んだかのように感じたことを覚えております。

その後、富山大学の方にも、二度ほど学会でお邪魔させていただき、そのうち一度は、思い出すと恥ずかしくなりますが、口頭発表もさせていただきました。その折には、松川の静かなたたずまいや、市内を流れる神通川の広さ、駅前の雑然とした魚市場などが強く印象に残りました。今回こちらに来て、駅前がすっかり変わっているのには一抹の寂しさも感じましたが、その一方で、何か街全体に新しい街づくりのアイデアが、溢れているように見受けられ、これからを楽しみにしています。

まだ学生とは一通り顔合わせした程度ではあります。が、授業も始まり、今は心地良い緊張感と共に毎日を過ごしているところです。幸いに、十分に勉強できるだけの環境を与えていただいておりますので、続けてシェイクスピアについて考えつつ、少しずつ守備範囲を広げていきたいと思っております。

経済学部教授 居 林 次 雄



本年3月1日付けで経済学部に参加しました。

生まれは滋賀県で雪の多い伊吹山の麓で、育ったのは愛知県の知多半島で温暖の地でした。大学へ進学してからはずっと東京暮らしでしたから、今回の富山の生活は郷里へ帰って来たような気がして、

毎日、おいしい水を腹一パイ飲んで、楽しく過ごして

います。

30年間、経済団体で商法改正とか税制改正など経済法規の改正作業を担当して来ましたから、法律と実務との間をつなぐ仕事に馴れ、この条文がどんな経緯で六法全書に入って来たか、という点などを、横から見ても解説できるのが、私の特色の一つということになりましょうか。

それだけに企業と法令とをつなぐ面では、実際社会に出て学生諸君が役に立つような講義ができるのではないかと考えています。

当地へ赴任する以前は、立正大学の法学部で企業会計法や企業取引法の講座も担当して来ました。大学の講義の通りに社会は動いている訳ではありませんが、何か紛争が起こった時には、法律が最後の拠り処になりますから、まさかの場合をも考えて、自らが危険な地位に陥らないように万全を期しておく必要があります。

そこで大学の講義を聞いていると、常に世の中では紛争があり、裁判所に訴えて白か黒かを決めているかのような錯覚に陥り勝ちになります。

しかし日本の社会では欧米と異って、裁判所へ訴え

たり、法律事件にしてしまうようでは、取引先や関係者と気まづくなって、後々の修復に何倍もの努力をしなければなりませんから、訴訟に持ち込むのは、極めて例外的なケースに限られます。

そういうことを念頭に置いて法律の解釈や判例の評釈をしていきませんと、卒業してから、非常識な大学卒だと笑われることになりかねません。

できるだけ学生諸君に理解し易いような商法の講座やゼミナールにしたいと工夫していきたくは思っていますが、折角の大学生活を無にしないように諸君も頑張ってください。

たき かつ ひろ
経済学部講師 瀧 敦 弘



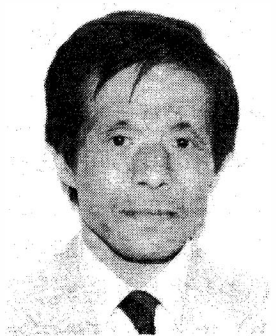
名古屋大学の助手より本学経済学部の講師として着任いたしました。講義は後期より担当させていただきますが、「厳しい先生は、良い先生」であることをモットーにするかも知れません(?)

研究テーマにおいては、日本経済が実際にはどのようなメカニズムで動いているのか

について興味をもっており、おもに計量経済学的手法により統計データの数量分析をおこなってきました。今後も、おもに労働市場、金融市場、企業の経済行動、流通問題などを分析、また、それらのための分析手法の開発をしていこうと思っております。

生まれも育ちも大阪で、新しい環境に戸惑うことも多いですが、また、今までにない新しい体験に感動したりしております。公私ともに新しい発見、新たな挑戦をめざして頑張りますので、何卒、よろしくお願いたします。

さくら い じゅん じ
理学部教授 櫻 井 醇 児



私は4月に理学部物理学科に着任致しました。専門は固体物性、磁性で、物質のいろいろの物性量を測定してその電子構造を解明することを研究の対象として来ました。新しい特性を持つ物質が次々と登場し、その魅力的な理論説明も行われ、技術革新の基礎

を担う分野でもあり、精力的な研究が組織化されて来ております。幸い富山大学では関連した研究を行って

おられる方が多く、またこの分野の測定装置がそろっており、低温液化室がよく機能して極低温での測定もやり易いので、皆様と協同して大いに成果をあげたいと思っております。

私はこちらに来るまで京都と広島ばかりで、富山については殆んど知っておりませんでした。しかし、ガイドブックを見て予備知識をあわせてつめ込むよりも、富山に来てからの実際のフレッシュないろいろの体験を通して、富山について発見し、学びたいと思っております。基本的にはどこに行っても、人の住む社会が同じことには変わりがないでしょうが、でも自ずと土地

ごとの素顔が異なるのも事実だと思います。京都や広島とは別の、富山の独自性に触れることを大いに期待しています。車窓より見た白銀に光る立山連峰の姿は極めて印象的でした。厳しい登山など私には到底できそうにありませんが、でも山の中腹を足のおもむくま

まにハイキングするならできるのではと楽しみにしております。この象徴的に美しい自然をリゾートの対象にしたりせず、自然との豊かな接触を通して私の創意が育まれると云うようになりたいものだと思わずにはおれません。どうぞよろしく願いいたします。

理学部助教授 黒田英世



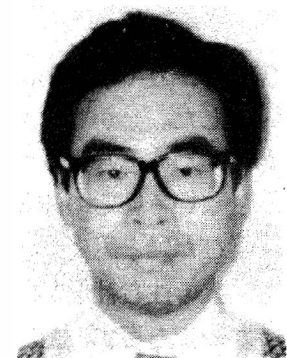
履歴書を書くたびにいさかはずかしい思いをします。なにせ小生の学歴は名古屋中学に始まり大学院まで全部名古屋……で、前任地も名古屋大学です。あまりにも芸がなく、今回富山に住む機会を与えられた事をよろこんでいます。小生の趣味の一つは旨い

物を食う事で、この地は海山の幸に恵まれており大変気に入っております。又立山連峰に残る雪を望むたびにムラムラとします。学生時代はもっぱら水の上でスティックを振り回すのにいそがしく、雪にまみれる機会が少なかったので未だに欲求不満が残っています。今年の冬こそと楽しみにしています。

サルモネラ菌・枯草菌・プルテウス菌・トノサマガエル・アフリカツメガエル・モジホコリカビ・アカパンカビ・酵母菌そして棘皮動物のウニ。これ等は小生が今まで実験材料としてきた生物です。学歴・職歴と

は異なり変化に富んでおり、我ながらあきれます。でも大学院修了以降、材料は種々ですが細胞の膜に存在するイオンチャンネルやポンプと細胞の機能について考え実験してきました。ここ8年余りはウニ卵を用いて電気生理学的或いは生化学的方法で研究してきました。各種の動物細胞でホルモンや種々の刺激を受けると細胞内のカルシウムイオン濃度が一過性に増大し、それが細胞の収縮や分泌を誘起する。卵細胞に於いても受精直後にカルシウムイオン濃度が上昇し、これが発生の引き金となっています。現在我々はウニを用い、精子がどの様に卵を刺激し、それがどの様な機構でカルシウムイオン濃度を変化させるか研究しています。今後もこの様な研究を続けるとともに、新天地に移ったのを機会に卵や幼生とそれを取りかこんでいる外的環境である海との関わりあいについても考えていきたいと思えます。でも近年ウニの入手がますます困難になってきました。皆様ウニをあまり食べないでください。

理学部助教授 平井美朗



4月1日付けで、富山医科薬科大学より理学部天然物化学教室に着任致しました。宜しくお願い致します。

富山医科薬科大学発足当時の校舎の都合で、旧薬学部に2年間お世話になり、その関係からこちらに来ることが決

まった時、なんだかなつかしい気分でおりました。しかし着任して一ヶ月近くたって、自分の身の回りの整理と研究体制を少しずつ整えてくるにしたがって、新天地に来たのだという感激が湧上がってくると同時に責任の重さに身のひきしまる思いをしております。

私の専門は有機合成化学であり、主に生物活性天然物の合成研究を行っております。現在興味を持っているテーマは、1) 構造の似かよった天然物類の効率の

良い不斉合成を行うための、共通合成中間体を分子設計し、これらの不斉構築を行う、2) 不斉反応のデザイン、3) 強い生物活性を示す海洋生物由来の大員環デプシペプチド類及びそれらの類縁体の合成、であります。なお将来の夢であります、ここには多様な分野で、活発な研究をなさっておられる先生方が大勢おられますので、私とは異なる分野の先生方と共同研究を行い、何か新しい成果を生み出すことが出来たら…と思っております。又学生諸君に望むことですが、

実験を通じて少しでも有機合成化学のおもしろさを感じ取って欲しいと願っています。有機合成は高峰の登山によく似て、日頃の実験は深夜に及ぶこともあり苦勞しますが、その過程で得るものの大きさや、成果が上がった時の喜びはたとえようがありません。

最後に、私は八尾町に生まれ育ちました。今でもお祭りのはやしやおわらの音色を聞くと心がおどります。八尾の方面に来られましたら、我が家にもお立ち寄り下さい。

理学部助手 おだしま ひとし
小田島 仁司



本年4月1日付けで理学部物理学科に助手として着任致しました。どうぞよろしくお願ひ致します。

私は、この3月に東京大学大学院博士課程を卒業したばかりの社会人一年生です。また、東京生まれの東京育ちです。初めて一人暮らしを

しています。富山大学での生活においても下宿生活においても研究室の大学院生の皆さんの方が先輩で、色々教えていただきながら一日も早く富山での生活に慣れるべく努力しております。富山へ来てまず感じましたことは、さすがに米所の富山だけあってご飯がとてもおいしいということです。海の幸の味も格別で、つついとお酒の方も進んでしまい太ってしまうのが心配です。また、自然の景観も素晴らしく、まだ雪で真っ白な立山連峰には圧倒されます。有名な蟹気楼も

そろそろシーズンということで、是非とも見てみたいものだとしみにしております。

私は、大学院時代には、レーザー分光、マイクロ波分光の分野で研究を行って参りました。全国の大学の中でも、富山大学ほど分光学のスタッフの充実しているところは珍しく、とても素晴らしい研究環境に恵まれております。このような所で研究ができ、大変うれしく思っております。分光学とは、レーザー、マイクロ波などの電磁波を物質に作用し、その応答から物質のさまざまな性質、状態の変化を知ろうとする学問です。私は、分子がさまざまな摂動を受けてどの様に量子状態を変えてゆくかということを中心にして研究を行って参りましたが、まだまだ未熟者ですので、知らないこと、わからないことが山のようにあります。学生の皆さんと一緒に勉強をし、実験をし、議論をして、物理学の1ページに新しい何かを付け加えることができたらと願っております。一生懸命頑張りますので、よろしくお願ひ致します。



工学部助教授 ^{また の ひろ み} 北 野 博 巳



科学技術の進歩に伴って、単一の機能ではなく、より複雑で高度の機能を有する有機材料を開発することの必要性が叫ばれている。この要求を充たすものの中に生体物質があるが、化学的・物理的安定性に欠ける、コストがかかる等の問題を有している。

そこで最近では、生体の有する優れた機能を人工的に再現し利用しようという生体模倣化学（Biomimetic Chemistry）が盛んになっている。私も昭和48年に京都大学工学部高分子化学科を卒業以来18年間にわたり生体模倣化学を研究してきた。初期の酵素や核酸のモデル物質からはじまり、現在では、種々の化合物の複雑な有機体である細胞そのものを研究対象とし、その構造・機能を再現しようという試みを行っている。

生体内における組織や器官の形成、自己防御システ

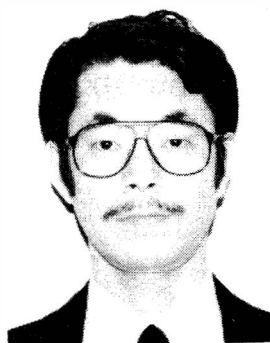
ム等にみられるような細胞間の認識・応答現象のモデル化を行い、膜の巨視的・微視的構造、強度、応答基の数や配置等の因子の影響を検討している。

また脳、神経、知覚器官等の有する機能を人工的に構築し、情報工学用素子として利用することをめざし、有機超薄膜やゲル等について外部情報応答性の検討も行っている。

一方、既存の生体分子の有効利用を図るBioengineeringの方向からも研究を進めており、比較的不安定なタンパク質である酵素の高度利用を目的とする優れた固定化酵素用担体の開発と、それをを用いる有用物質の生産、さらに生体親和性が高いと考えられる生体分子由来の微粒子の薬物運搬用担体への利用等の検討も行っている。

このように人工材料と生体物質との接点で優れた機能材料を得るとともに、その研究を通して生体機能の分子レベルでの解明にも寄与したいというかなり欲の深いテーマを、懐かしい故郷にある本学工学部化学生物工学科でさらに発展させて行きたいと考えている。

工学部助教授 ^{こ だいら けん いち} 小 平 憲 一



平成3年4月1日付けで、新設の工学部化学生物工学科細胞工学講座に着任致しました。昭和47年に東北大学理学部物理学科（素粒子論）を卒業し、以来約15年間、医学部畑で分子生物学（分子遺伝学）を専攻してまいりましたので、久しぶりに古巣に

戻った事になります。

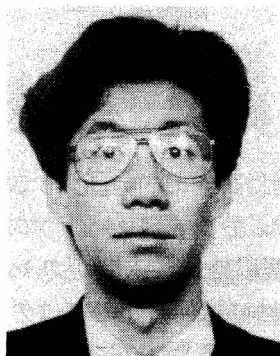
生命体を分子レベルで解明しようという研究領域は、この20年の間に、目をみはる急進展をとげ、さまざまな学問分野をつくり出して来ました。研究の進歩につれ、生物物理、生物物理化学、分子生物学、分子遺伝学、細胞生物学、体細胞遺伝学、分子細胞生物学、

分子免疫学、生体情報科学、タンパク質工学、細胞工学等の名称をもつ沢山の学問領域が誕生して来ました。また、これらの研究に使われる技術の進歩も著しく、遺伝子工学、組織培養学等は独立した研究領域を形成した観があります。現在、これらの混乱を避けるため、生命体を分子レベルで理解する学問を広く“生命（生物）科学”という名前で捉えることが提唱されているようです。

化学生物工学とは、生物科学を基礎として生命体を工学的に捉えなおし、なおかつその成果を工学的に応用して行こうという甚だ守備範囲の広い21世紀へ向けての新しくも難解な学問かと思われま。時代を先取りした学問がもつ宿命ではございますが、恐らく想像を絶する多くの思考錯誤を繰り返して行かなければならない事と存じます。

与えられました教育と研究の場におきまして、微力ながら生命科学（工学）の発展のために努力致す所存でございます。

新設講座であるため、行き届かない点が多々生ずる



初めまして、工学部電子情報工学科計算機工学の小出真路（しんじ）です。出身は滝と猿で知られる（？）大阪の箕面（みのう）市です。ここ富山県には登山のために何回か来たことがあります。鹿島槍から祖母谷までの縦走が印象的に残っています。富山県は海にも山にも近く自然環境に恵まれています。私は学生時代、名古屋にいましたので、近くにはこれほど素晴らしい山はなく千メートル程度の山に登ることが多かったです。これからは、この利点を大いに活用させて頂こうと思っています。

ここで富山の印象を記しましょう。私の研究室は金属棟の6階なのですが、そこから見える立山連峰の美しさは最高です。しかし、その美しい姿も天気によりなかなか見れないというのが残念です。また、4月になっても寒いのはまいりました。しかし、厳しい気象環境の地域は、例えばヨーロッパがそうである様に



平成3年4月1日付けで電子情報工学科電気システム第3講座に助手として着任いたしました。

私は、昭和62年に本学大学院工学研究科を修了し、神奈川県にあるアリムラ技研（株）というベンチャー企業に就職しました。皆様にはなじみのない会社だと思いますが、アリムラ技研は世界初のI

と存じますが、諸先生方におかれましては、何卒一層の御指導、御鞭撻と御援助を賜りますよう切にお願い申し上げます。

工学部講師 小 出 真 路

文化が発達すると言われています。ここ富山では演劇活動が盛んと聞いています。しかし、その手の情報がとんと入ってきません。良い劇場があれば教えてください。また、町内には最近国内で少なくなった路面電車が走っています。これは自動車の過剰な増加を防ぐ意味で良いと思います。一方、郊外の道路は綺麗に舗装され駐車場の広い店などがあり自動車の利用には便利です。しかし、これは折角の富山の美しい自然を汚しているようで残念です。私はといえば、いままでの自動車生活を捨て自転車で自然を楽しみたいと思っています。しかし、これも冬の来るまでですが……。

ここで、簡単に研究歴について書いておきます。学生時代、核融合プラズマの実験的研究を行い、続いてプラズマの数値シミュレーション研究をおこないました。現在、このシミュレーションのテクニックを宇宙プラズマ（太陽フレア、宇宙ジェット、原始宇宙プラズマ等）に適用しようとしています。宇宙に関心をお持ちの方は一度研究室を覗いてみてください。それでは、よろしくお願ひします。

工学部助手 塚 田 章

Cカード基本特許を取得した会社です。従業員わずか40人たらずの会社ですが、ICカードの他にアンテナの開発も行っております。私は、入社以来4年間SHF帯スロットアレイアンテナの研究開発を行ってまいりました。

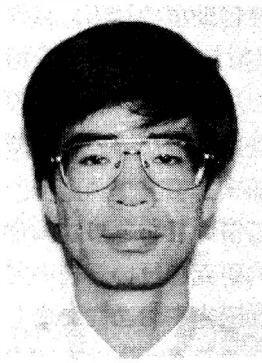
趣味は月並みではありますがスキーとテニス、そしてゴルフを少々やります。これら全て大学時代にあまり興味を示さず、社会人になってからやり始めたものです。富山にいる時に比べ、使用料等は2倍以上、スキー場まで300km以上（渋滞で15時間かかったことも

あります)と条件が悪いにもかかわらず、ひどい年は11月末から3月末まで毎週末欠かさずスキーに行きました。おかげでボーナスは底をつきマイナスの生活が待っていたのは言うまでもありません。さらにテニスは、多い時で週に4~5回ペースでやる始末です。しかしながら物事万事天賦の才というのがあるので、かけた時間に比例して上達するわけでもない、ただ楽しくやっております。ここまで言うとした遊んでばかりいた様に思われますが、幸い会社の研

究室が自宅から徒歩3分という近さだったので、テニスから帰って来てまた実験をやることもできました。つまり、都会人にありがちな3~4時の通勤によるロスタイムがなかったので助かった次第であります。

以上、述べた様に、どこことなくあまのじゃくの気がある若輩者の私ですが、何でもこれぞと思うことにはエネルギーをおしまないつもりですので、宜しく御指導、御鞭撻の程お願い申し上げます。

工学部助手 ^{さか}酒 ^い井 ^{みつる}充



4月1日付けで、工学部電子情報工学科助手に任用されました。富山大学は私の母校であり、文部技官として勤めてまいりました。そのため、富山大学には愛着があり、よりよい富山大学を作り上げていくために微力ながらお役に立ちたいと考えております。

私はパターン認識に関する研究を行ってまいりました。パターン認識の研究を始めるとき、紙に書かれた文字を人間が認識するのは簡単なもので、それをコンピュータを用いて認識させるのは簡単だろうと考えていました。ところが、いざ始めてみますと、ある程度まではいきますがなかなか人間に匹敵するほどにはいきません。逆に人間の持つ能力の素晴らしさを認識することになりました。紙の上にかかれた文字はあくまで絵としてのデータであり、そこから認識に適切な数値特徴を抽出するのですが、手書き変動もあり安定な特徴を見つけだすのが困難なのです。

ワープロなどの定形的な処理以外に、人間がコンピュータを自由に使いこなすためには何らかのプログラミングが必要になります。プログラミングには記述するための言語が必要なのですが、どのようなコンピュータ言語や環境を用いるかによってプログラミングするときの発想や能率は大きく左右されます。このような観点から、オブジェクト指向のプログラミングパラダイムに注目しています。初めて学ぶプログラミング言語としてはきれいな書き方を強制する言語がよく、そのため、学生実験ではPascalを使用しております。コンピュータは単純なのでプログラムどおりにしか動作しません。そのため、プログラミングは筋道だった考え方をする訓練になります。

富山の恵まれた自然の中で、学生や教職員の方々と夏はテニス、冬はスキーを楽しんでおります。また、ヨガもやっていますが、テニスやスキーとは別の意味で心身のリフレッシュになっております。

最後に、皆様方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



工学部助手 米 山 嘉 治



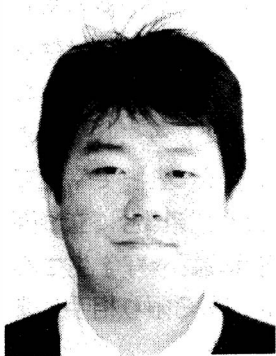
4月1日付けで工学部助手に昇格させていただきました。学生時代からはもう何年も経ちますが、この4月からは何か今までとは違った気分です。

工学部に来ましてからは石炭の液化について仕事してきました。石炭は黒くいろいろな有機化合物の混合物ですので、石炭の研究には最初はなかなか馴染めなかったのですが、最近になってやっと自分に馴染んで来た気がします。石炭は産業と直接結び付いていたものなのでその研究は、石油価格に大きく影響をうけます。石炭は5、6年前までは石油価格の上昇に伴い石油代替エネルギーとして注目されていました。その頃は石炭

分野の研究も華やかだったのですが、昨今、石油価格が低下し安定していることから、もう石炭の役割は終わったなどと一部では言われています。しかし石油資源の可採年数を考えますと、石油に比べて一桁多い石炭の埋蔵量は将来の有機資源として石炭に頼らざるをえないことを示しています。泥棒を捕まえてから縄を縫うことの無いよう、今の内に石炭の有効利用について微力ながら何か役に立てばと思っています。石炭液化の研究者の夢は常温常圧で石炭を液化することだと思いますが、昨年学部改組で化学生物工学科と名前も変わった事ですし、微生物を使い常温常圧下に石炭を液化できないかと思っています。

最後にこれからも、この大学の研究、教育に微力ながら尽くしていきたいと思っておりますので諸先生がたの御指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

工学部助手 星 野 一 宏



この4月に新潟大学工学部化学工学科より富山大学工学部化学生物工学科生物プロセス講座に赴任してまいりました。それまでは一貫して新潟大学にお世話になり、昨年の春に博士の学位をいただいた後に、日本学術振興会の特別研究員をしていました。

私の専門は、ここ10年ほどで急速に発展してきた「生物化学工学」という分野で、従来からある化学工学と生物学（農芸化学、食品工学、遺伝子工学、培養工学などを含む）の分野が融合した新しい分野です。具体的には、微生物、植物、動物などの生物を用いて酵素、抗生物質、機能性ペプチド、色素、芳香成分などの生化学有用物質を効率的に生産する方法を検討すること、そのための装置（バイオリクター）の開発、操作方法について工学的に研究することです。

実際に行っていた研究は、乳酸菌を利用した抗生物質ナイシン、有用酵素酸性ウレアーゼ、酸化還元酵素スーパーオキシドジスムターゼ、芳香成分ジアセチルなどの生産と、新規固定化酵素（セルラーゼ）を用いたセルロース資源（木材、稲わら、古紙など）からのエタノールの連続生産です。今後は、これらの研究をさらに発展させ実際の工業に利用されるよう検討していきたいと考えています。また、富山は昔から薬で有名な土地なので、医薬品などに用いられる有用物質（アルカロイドなど）の生産、開発などを工学的に検討し地域にそくした研究を行ってみたいと考えています。

最後に私が富山について知っていることは、北アルプスの立山、富山の薬、「ますのすし」があることくらいでほとんど知識はありません。これから学生と親睦を深め研究したいと考えています。さらに富山大学工学部化学生物工学科のために教育に研究に微力ながら頑張りたいと思います。



4月1日付けで工学部化学生物工学科細胞工学講座に転任してまいりました。私は生まれも育ちも富山県高岡市でありまして、学校はすべて家から一番近い所へ行っておりました。(ただし、一番近い高校は女子校で、私は本当はそこに…

……) 出身は富山医科薬科大学薬学部でして、そこで学位を取り、一年間医学部の保健医学教室の助手となり、今度は工学部と三年間で三つの学部を渡り歩いて来ました。私の専門は衛生化学でありまして、衛生化学とは定義しがたい分野です。主任教授である狐塚寛先生の言を借りれば「衛生化学者は遊撃手のような…」というようにセカンドとサードの間で柔軟に動き回る人種です。ショートとは御存知のように決してハデなことはしません。守備範囲が広く、右にも左にもそして堅実さを要求され、私も院生時代合成から動物や微生物といろいろなことを一通りかじってまいりました。父親なんぞは「薬学出身が工学部なんぞ……」(医学部にいた時も同じことを言われた)と言いますが、良く言えば何でも屋、悪く言えば器用貧乏の私です。工学部的な色あいを持った生化学に取り組んで行きたいと思っています。具体的なテーマに関してはいくつか考えておりますが、まだ海の物とも山の物ともつかない状態です。一どころかゼロからスタートなので半年でだめになったらどうしようかと思っています。軌道に乗り、機会がありましたら改めて紹介したいと思っています。それに私は抱負などとい

うのを口にするのが好きではない性分なので、ご了承下さい。(本当はモーツァルトの研究をやりたいなあなどと馬鹿なことを考えています。)さて仕事の話は置きまして、私は大の囲碁キチでモーツァルト狂です。男なら(女でもいいのですが)一度でいいからやってみたくらい職業に野球の監督と指揮者と言うのがあり、私はもちろん後者(前者もやってみたくらい)の方です。本当のことを言うと富大ではなく、どこかの新設大へもぐり込み、クラブの顧問になりすまし、指揮台に立つなどとはよからぬことを考えておりました。ところが転任先は伝統ある富山大学。とても私ごときが指揮台に立てるクラブはどこにもありません。多分これは神様が、よそ見をせずに研究に打ち込みなさいということをおっしゃっているのだと思い、このことを肝に銘じ、非力ながら努力していくつもりです。

また、富大は総合大学ですのでいろいろな分野の学生さんや先生方がいらっしゃいます。昔、ある先生に私の研究内容について妙ちきりんな質問をされ専門外だからなあと思っていましたが、その妙ちきりんな質問の裏にもしかすると真実があったのではないかということに研究を続ける内にぶち当たったことがあり、素人も馬鹿にはできないものだという感想を持ちました。そういう意味で分野の違う、特に文科系の学生さんや先生方と交流を深め、研究のヒントとなるようなものが得られることを今から非常に楽しみにしています。そういう意味では今度の転任は私にとって幸運であり、神に感謝しています。(ただし指揮台に立つ夢を捨てたわけではない。)また囲碁の好きな学生さんも私の所へいらして下さい。時間がある限り相手します。

教養部助教授 ^{ふた} ^{むら} ^{ふみ} ^と
二 村 文 人



4月から一般教養の文学を担当することになりました。私は東京の生まれですが、たまたま高校時代を金沢で過ごしましたので、今回は丁度二十年振りの北陸生活ということになります。

専攻は江戸文学です。江戸小咄を集めた咄本から勉強を始めましたが、近年はその咄本や講談の中に育まれてきた通俗史——俗伝がどのようにして作られたのかということに関心が移ってきています。

そもそも私が江戸文学に興味をもったのは、中学生の頃から落語が好きだったことがきっかけになっています。大学時代も地方におりましたから、休暇で帰省すると昼夜寄席に通いつめていました。三遊亭円生や林家正蔵（彦六）がまだ元気でした。金沢にはかつて一九席という好い寄席がありました。この席については、既に同好の士によって資料が集められ、研究が進んでいます。私も当地へ赴任したのを機会に、北陸の寄席や芝居の興行の実態を調べてみたいと思い、まずは地元の古い新聞の調査から手を付けようと考えています。更に、どこかスポンサーを見つけて、私の物差

して選んだ人を呼び、富山で落語や講談の会を企画したいとは、いつ実現するのかわかりませんが、秘かに目論んでいることです。

授業では俳諧（連句）を取り上げています。連句は複数のメンバーが集まって、5・7・5の長句と7・7の短句を交互に続けていく、俳句の元になったものと言っていいでしょう。連句は明治に入ると正岡子規によって完全に否定されてしまいましたが、この共同制作の文学が現代にあってどんな可能性をもっているのか、改めて考えてみようと思います。教室では芭蕉の作品を鑑賞することと合わせて、実作を試みると予告したものですから、受講生が激減してしまいました。しかし、人の句に自分が句を付ける面白さ、自分の句を他人がどう受け止めてくれるかという期待は、実際に体験してみないとなかなかわかりません。実は連句についても、私が手ほどきを受けた恩師から、是非共北陸に連句を広めるよう密命を帯びてきています。

これまで多忙な職場のコマ切れの時間の中を動き回っていましたが、しばらくはじっくり腰を落ち着けて自分の勉強に取り組みたいと思っておりました。けれども、いつかそれが習い性になってしまったのでしょうか。気がついてみると落語に連句に仲間を求めようそわそわははじめている次第です。

教養部助教授 ^{ふじ} ^た ^{まさ} ^{はる}
藤 田 正 春



4月1日付けで国立教育研究所から転任してきました。留学生に対する日本語および日本事情を担当します。出身は高岡です。高校卒業までいましたので、母語は富山弁ということになります。「方言も理解できる留学生を育てられるのでは」と思っています。

仕事と親孝行を両立できるということで、富山大学でお世話になることになりました。

富山大学との関係ということで言いますと、小学校6年生の時に附属中学を受験して、見事に落ちました。地元の中学校に入ってクラブ活動でクラシック・ギターにめぐりあい、今も研究室の片隅で友達づきあいをしています。最初の受験でまず一敗したことも、今はいい思い出です。

「大学を卒業したら、富山に帰ってきて中学の英語の先生にでもなろう」と漠然と思っていたのですが、保留期間を置いているうちに、日本語教育の世界に迷い込み、ぬけられなくなって、今日を迎えているというわけです。

日本語教育の世界は、一言で言えば、学習者の多様化、教師と教材の不足ということになるでしょうか。非漢字圏の留学生が日本語のテキストを読む場合、わからない漢字があると、ネルソンの『漢英辞典』というのを引きます。この辞典は非常によくできていて、漢和辞典よりかなり引きやすいのですが、残念なことに文例がありません。ですから、単語の使い方が分からないわけです。そこで、文例をどこでさがすかと言うと、日本人が外国語を勉強するために作られた辞典、例えば、和英辞典を頼ることになるわけです。ところが、和英辞典の用例にはフリガナがついていないので、用例の中にわからない漢字があれば、またネルソンにもどらなければならないということになります。この状況は、アメリカの大学で2年教えて日本に帰ってき

た10年前と、ほとんど変わっていません。

国立教育研究所では「パソコンによる外国人のための日本語教育支援システムの開発」（通称CASTEL/J）というプロジェクトにかかわっていました。日本語教育で使われている辞書、教科書、読み物、台本などのデータベースとそれを利用するソフトウェアの開発が主な目的です。このシステムが実用化すれば、多少とも、外国人の日本語学習者の役に立つのではないかと思います。

最後になりますが、留学生に対する教育は、一人ではほとんど何もできません。いろいろな方々に協力をお願いすることになると思います。世界と日本を結び人材育成のために、よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

教養部講師 ^{みや} ^{うち} ^{のぶ} ^こ
宮内伸子



この4月から教養部のドイツ語研究室に参加しております。これまで富山との縁といえば、15年程前、北陸本線で富山駅を通過した際に鱒ずしを買ったことがあるだけという実に薄いものですが、今回、何重もの幸運に恵まれ、こちらでドイツ語教師になる

ことができ、これはきっと自分で気づいていないだけで、何か深い縁が富山と私との間にあるにちがいないと今では確信しています。

これまで専門に勉強してきた領域はドイツの近代文学です。ドイツ文学では20世紀になると、ホーフマンスタールの『チャンドス卿の手紙』に端的に見られるように、言語に対する盲目的な信頼への揺らぎが人々の関心を集めるようになります。私は特にことばの自律性に興味を感じて、ことばに振り回される人間を描きかつ自演したカール・ヴァレンティンの作品、それからナンセンス詩とかグロテスク詩とか呼ばれるクリスティアン・モルゲンシュテルンの『絞首台の歌』を取り上げて、そこに見られる言語の力を探ってきました。これからはしばらくはこのような分野を研究していくつもりです。また語学教師としては、一人

でも多くの学生にドイツ語を通して、ことば、それから外国語学習の面白さをわかってもらえるような授業ができたと思っています。英語だけではなしに他の外国語にも接することは、ものを考える際に、あたかも何か一つの「外国」というものがあるかのように錯覚して、日本ではこうこう、「外国」ではこうこう（無意識のうちに外国=英米となっている場合が結構多い）というような単純な二分法から脱するきっかけとなるでしょう。これは大切なことだと思います。

私は生来のんびりした質で、人生の時間を随分無駄にして回り道をしているように端からは見えるかもしれませんが、でもそれがどんなにぐねぐね蛇行していようと、本人にとっては唯一の一本道なのだとあえて言いたいのです。高校卒業後のことを履歴書風を書けば、まず東京女子大学で社会学と文化人類学を勉強しました。その後ドイツ語を学び、あるドイツの化学・薬品企業の東京事務所で翻訳の仕事に就きました。しかし、実務にはどうしても時間の制約が伴うので、現物を知らずにことばだけを訳すということが度重なり、結局2年半程で行き詰まってしまうました。それからいろいろ迷ったあげくに、東京都立大学の独文科に学士入学しました。2年後にそのまま大学院に進み、修士課程を修了し、博士課程1年を終えたところで幸運にもこちらに就職が決まりました。こんなのんびり者の私

に、自分の興味のある世界で生きていく場を与えて下さった皆様に本当に感謝しております。この紙面をお

借りして改めてお礼申し上げます。



人文学部
外国人教師

アンカー ゲオルク ヨーゼフ
ANKER Georg Josef

Ich stamme aus Ebbs in Tirol (Österreich). Ausbildung: Gymnasium in Salzburg, dann Studium an den Universitäten Innsbruck und Lissabon. Zunächst Medizin, dann Vergleichende Literaturwissenschaft, Germanistik und romanische Sprachen. 1976 Promotion zum Dr. phil. in den Fächern Vergleichende Literaturwissenschaft und Germanistik. Gegenstand der Dissertation ist im weitesten Sinne Texttheorie und Kultursoziologie. Beruflicher Werdegang: 1974/75 Lektor an der Universität Porto (Portugal), dann Assistent am Institut für Vergleichende Literaturwissenschaft der Universität Innsbruck und Arbeit an einem Forschungsprojekt über portugiesischsprachige Kolonialliteratur und afrikanische Literatur.

1988 Wechsel in die Softwarebranche. Hauptarbeitsgebiete sind relationale Datenbanken, die Datenbankabfragesprache SQL (Mitarbeit an einem SQL-Lehrbuch) sowie 4GL (Programmiersprachen der vierten Generation).

Mein Interesse gilt neben der Literatur vor

allem der angewandten Linguistik im Bereich Sprachdidaktik sowie Computerlinguistik.

Zur Zeit bin ich Lektor für deutsche Sprache an der Universität Toyama, und es würde mich freuen, wenn es auf dem einen oder anderen Gebiet zum Gedankenaustausch oder zur Zusammenarbeit mit Kolleginnen und Kollegen kommen könnte.

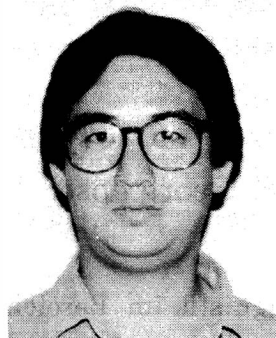
Für jemanden, der wie ich sowohl die Berge als auch das Meer (und frischen Fisch sowie Reis) liebt, ist Toyama sicherlich ein guter Platz zum Leben. Und vermutlich werde ich hier auch mehr Ski fahren, als in den letzten Jahren in Europa. Viel Neues hat mich gleich nach meiner Ankunft angenehm überrascht - etwa die Freundlichkeit der Menschen, aber auch viele Kleinigkeiten des Alltags.

Angenehm überrascht hat mich auch, daß ich gleich beim ersten Besuch der Universitätsbibliothek einige Bücher gefunden habe, von denen ich glaubte, daß Sie mir hier vielleicht fehlen würden. Hier ist also nicht nur gut zu leben, sondern auch gut zu arbeiten.

ドイツ統一選挙の風景

—選挙運動にもお国柄が反映している—

教養部助教授 筒井 洋一



選挙といえば、日本では選挙カーからの騒音、ビラ洪水、そして、選挙事務所からの電話と運動員の訪問など、相場は決まっています。でも国が違えば、選挙運動のやり方もかなり違います。

昨年、私が滞在していたドイツは、まさにドイツ統一の最後の締めくくりの時期でした。それに関する重要な日付だけを列記するとこうなります。

- 7月1日 通貨同盟（通貨を西独通貨に統一）
- 10月3日 ドイツ統一の日（東独を西独に編入）
- 12月2日 ドイツ統一選挙（統一後最初の総選挙）

そんな大変な時期なら、さぞかし選挙戦も騒々しいと思われがちですが、意に反して本当に静かでした。以下に、ドイツの選挙戦の一端をご紹介します。

まず、選挙期間中、騒音に悩まされることは一度もありませんでした。わが国のように、町中を所狭しと走り回り、歩行者に向かって、大音声で「ご声援ありがとうございます」と叫び、ひたすら候補者の名前を連呼する、あの悪名高き選挙カーというものは見かけません。そもそも、ドイツでは商業目的用の宣伝カーでさえもほとんど走っていません。彼らの生活習慣は、できるだけ静寂を大切にし、たとえば、夜十時以後はシャワー・トイレの使用禁止、そして日曜日は掃除・洗濯もしてはいけない、ということも珍しくありません（もっとも、わたしの住んでいたアパートは年輩者が多いにもかかわらず、あまり厳しくありませんでした）。

次に、選挙ビラですが、ドイツでは、すべての家にビラを軒並み入れていく、というビラの各戸配布はあまりありません。ビラは選挙集会会場や繁華街にある

政党の選挙事務所で配布されます。その内容は、わが国と似たり寄ったりですが、運動員のビラの撒き方はだいぶ異なります。日本だと、選挙期間中、繁華街を歩くと、候補者の名前を叫びながら、無理にでもビラを渡そうとする運動員が多数陣取っています。もらってもどうせゴミ箱行きと思いながらも、運動員の迫力に押されてつい取らされてしまう、そんなこともよくあります。

これが、ドイツだこうなります。運動員はこちらが催促でもしない限り、むりやりビラを渡す、ということはしません。私は、研究の関係上、ビラはできるだけもらうようにしているのですが、日本だかかってに集まるのに、この国ではもらいに行かないといけません。ただ、こちらから取りに行くと、運動員は、まさに自分が候補者にでもなったかのように、微に入り細に入り説明してくれます。また、事務所前で運動員と延々と議論している有権者の姿もよく見かけます。

事務所では、人寄せのために、お菓子、飲物などを販売しています。これがなかなかの人気です。その秘訣は他の店より値段が安いことにあります。十二月のドイツ統一選挙が行われた頃は、ちょうどクリスマス商戦たけなわで、繁華街には商店に加えて、屋台が多数軒を並べていました。そこで有権者へのアピールのために、飲食物を安く販売するという手を思いついたようです。ちなみに、私のいたポッフムという町では、コール首相率いるキリスト教民主同盟がワッフルを、社会民主党がコーヒーと温めたワインを、緑の党が野菜や茸の入った焼飯（肉をよく食べるこの国では、米はダイエット・フード）を販売していました。

ワッフルみたいな甘い物はわが国では成人男子は食べませんが、この国ではどんな年齢の人でも好きです。（けれど、どうして飲物も一緒に売らないのか。この辺がビジネスにたけた日本人には物足りない。）寒さしのぎにコーヒーやワインなどは私もよく飲みましたが、夕方に行くとなんか売切れ。（これじゃ有権者サービスじゃなく、逆に不信を買う）。焼飯にはプ

ラスティック・スプーンではなく、金製のフォークを使っていたのは、いかにも環境保護にやかましい緑の党らしい。(けれど、いくら米を食べても、べっとりとするほど油を使ったのでは、ダイエットにならない)。

最後に、投票日前日の選挙戦風景ですが、これもびっくりするほど違います。わが国ならば、声渇れでもはや出ない声を振り絞って、最後のお願いを繰り返す候補者や運動員が繁華街に集まり、一種異様な緊張感と絶頂感を現出しています。選挙とは、その時だけが有権者が主人公であると感じさせるものですが、まさにそのフィナーレにふさわしく、候補者は有権者の僕(しもべ)としての役割を演じようとしています。

でも、わが町ボッフムの繁華街の様子はまったく違いました。当日は土曜日なので、クリスマスの買物に多くの市民が繰り出していました。私は、午後三時頃選挙事務所近くを徘徊していたのですが、なんと一つの事務所はすでに鍵が掛けられ、閉鎖されていました。おかしいな。でも、きっと別の党は開いているに違いないと思いきや、すべての事務所がすでに閉鎖されていた。あとでわかったことですが、別の場所で各党とも最後の選挙集会を開催していたようですが、それにしても最後の日のこの光景ほど違和感を感じたことはありませんでした。ついでに言うと、その夜のテレビ番組には選挙特集はほとんどなく、通常の番組を放送していました。

ここまでの記述からは、なんとドイツの選挙活動が低調で、国民の政治離れが進行しているのか、という印象を持たれるかもしれませんが、それは違います。私の言いたいのは、国民性の違いとともに、選挙活動

の重点の置き方の違い、市民生活と政治との距離の違いにあります。選挙活動は、日本では禁止されている個別訪問が中心で、また各地区毎の小集会も頻繁に催され、そこでは参加者間の討論にかなりの時間を割いています。そして、彼らはわれわれよりもはるかに確固とした政治的見解を持っています。これは、特にヨーロッパという地政的に厳しい国際環境に住んでいることとともに、日頃の会話の中で政治問題を論じる習慣が根付いていることが大きいようです。たとえば、東欧にかぎらず、西欧でも、政治をテーマにして、たいていは政府や政治家を批判する、アネクトート(政治小噺)が盛んです。

ドイツ統一選挙は、ドイツ統一という歴史的意義を確定するという意味で重要な選挙でしたが、実際の選挙戦は盛り上がりには欠けました。それは、そもそもは統一前に行われてこそ意味のある選挙が統一後に延期されたという理由とともに、かなり以前から勝敗の帰趨が明らかであったことがあります。けれども、投票率は約78%と、わが国の1990年衆議員選挙が73%であったのに対してかなり高くなっています。これでもかかっては80%を越えていたのに比べてかなり下がっていますが、やはりわが国とは大きな差があります。

彼らを見ていると、知人からの投票依頼なんかよりも、何がなんでも自分の考えで選ぶんだ。もし俺の考えを変えたければ徹底的に議論してやる、という姿勢が濃厚です。こんな頑固な人達の集まりですから、彼らの選挙戦があくせくとしていないように見えるのは、きっと選挙期間という短い期間ではなく、それよりはるか以前からの議論が勝負なんだ、とでも言いたげです。



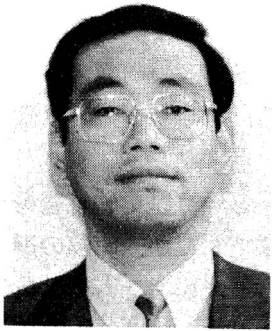
選挙活動の一コマ



ある政党の選挙事務所前

細胞膜用顕微偏分光測定装置の開発

工学部助教授 袋 谷 賢 吉



1799年ナポレオンのエジプト遠征軍の一士官がナイル河口のロゼッタ付近で奇妙な石碑を発見した。そこに刻まれた銘文を基に、フランスのシャンポリオンは、エジプト象形文字の解読に成功する。1822年のことである。並々ならぬ苦勞とそ

れを経済的に支え続けた兄の美談は今でも多くの人の胸を打つ。しかし、これにケチを付けた男がいる。自分が先に全文字を解読していたというのである。なるほど4文字は確かに解読していたが。その男の名はトマス・ヤングといい、光の波動説やヤング率など物理学ではお馴染みのイギリス人である。今は大英博物館にあるロゼッタ石と共に当時の英仏の確執を忍ばせる。

1802年、ヤングは王立協会で、眼の網膜中には、例えば青、緑、黄の3種類の色に感ずる細胞しかないと発表した。われわれは何百もの色相を見分けることができるから、かなり大胆な説である。後に同様の結論を得たヘルムホルツと共に、これはヤング・ヘルムホルツの3色説と呼ばれ、色彩学の基礎となっている。しかし、科学史家によれば、ヤングの発表以前に3色説は既にあり、それを記載した医学書も知られている。乱視の発見など眼科学に通じたヤングがそれを知らないはずはないという。言われてみれば、「何百もの色波長光に共振する何百もの異なる振動子が視細胞のなかにあるはずがない。高々3つだろう」というヤングの論拠はあまり説得力がないし、また、この発表の翌年、「青、緑、黄ではなく青、緑、赤でした」と訂正論文を発表しているのも何かおかしい。

アリストテレス以来、ニュートン、ゲーテ、マックスウェル、ヘルムホルツをはじめ、そうそうたる面々により研究されて来た色彩論だが、人間に限られていた。キリスト教国では、動物が色覚を持つことは許されないことだったのかも知れない。しかし、パブロフの条件反射の研究のセンセーションは人間の脳研究に

留まらなかった。条件付けを用いて多くの動物で色覚が調べられた。高名な学者でミュンヘン眼科病院長のヘスは広範囲な動物実験の結果、魚類は全色盲であるとの結論を得ていた。1911年、ミュンヘン動物学研究所の助手となったフリッシュは、コイ科魚類が人間と同様3色性の色覚を持つとの確信を得て発表した。以後、ヘスの猛烈な圧力にさらされた。フリッシュは次第にミツバチの方へ研究の中心を移したが、魚の色覚研究を引き継いだ弟子達は奇妙なことを発見した。コイ科の一種、アブラハヤが紫外線を他の可視光とは異なる色として見ているというものだった。しかしこれはあっさり否定されてしまう。すなわち、多くの動物の角膜やレンズに紫外線を照射すると、青白い蛍光を発する。実際、私自身何度か自分の眼で確認した（危険なので真似しないで下さい）。紫外線ではなく可視蛍光を見ているのだという理由である。以後、このことは忘れ去られてしまった。

心理学では3色説はるか以前に確立されていたものの、その実体は明らかでなかった。視細胞の先の方の光に感じる部分には、視物質と呼ばれる感光物質が細胞膜に埋め込まれたようになっている。この感光物質はレチナールと呼ばれるビタミンAのアルデヒドと、オプシンと呼ばれるタンパク質の結合したものである。レチナールが光量子を吸収し光異性化を起こすのが視覚の始まりである。この変化したレチナールはやがてオプシンとの結合が切れ、遊離してしまう。視細胞は桿体と錐体に大別される。桿体は暗いところで、錐体は明るいところで働く。心理学的測定との対応によれば、桿体の視物質は一種類なのに対し、錐体の視物質はそれぞれ青、緑、黄の光を最もよく吸収する3種類のものがないとしない。桿体視物質は化学的抽出が容易で、ウォールドラにより調べられたが、錐体視物質は化学的抽出が難しく、他の方法が模索された。

これに突破口を開いたのが日本の花岡と藤本であった（1957年）。花岡らは微小なスポット光を試料に照射し、その光波長を変えて透過率を測定する顕微分光法を錐体視細胞に適用した。残念ながら、測定精度は

悪かったが、衝撃は外国で大きかった。顕微分光法の開発者で、チトクロムの研究に多大の成果を挙げているMITのチャンス教授の下で働いた経験を持つ、ジョーンズ・ホプキンス大のマクニコルとシカゴ大のリーブマンは早速、視細胞用顕微分光法の開発に着手した。1964年、マクニコルと彼の大学院生マークスはまずキンギョの3種類の錐体視物質の測定に成功する。ある研究集会で口頭発表したマークスは、求めに応じリーブマンにそのデータを渡した。その結果がそっくりそのまま論文となって現れたのは言うまでもない。ともかく、視細胞用顕微分光法によりサルやヒトの錐体視物質の分光特性が続々と明らかにされ、3色説の生理学的基礎がようやく確立した。

1984年、マクニコルの研究室のハロシは東京女子医大の橋本の要請を受け、ウグイの錐体を顕微分光法で調べた。その結果、可視光域の3種の錐体に加えて、専ら紫外線に应答する錐体が見つかった。同じ頃、ロンドン大のボーメーカーらも同様の発見をし、私も独立に紫外線感受錐体が広くコイ科の魚類に存在すること、及びそれらの魚の角膜やレンズは紫外線を良く透過することを確認していた。まさしくフリッシュの弟子達の実験結果の正しさが証明されたことになる。しかし、この紫外線感受錐体の存在はすぐには学会に認められなかった。と言うのも、遊離レチナールは紫外線に吸収ピークを持つことから、紫外線感受錐体は幻で、実は可視光感受錐体の遊離レチナールを測定しているのではないかと言うものだった。しかし、この紫外線感受錐体の証明には良い方法がある。視物質は細胞膜中に埋まっていることは既に述べた。錐体の感光部の細胞膜はプリンター連続紙のように折り畳み構造をしている。視物質は扁平なので、細胞膜に平行な波面の光はよく吸収するが、垂直な波面の光はほとんど吸収しない。一方、遊離レチナールの向きはランダムでこのような偏光特性は示さない。従って、顕微分光法に偏光特性の測定を加えた顕微偏分光法により、紫外線感受錐体の存在の証明ができる。この装置の開発が本研究のテーマである。生きた細胞について、微弱光を用い瞬間的に測定しなければならないという厳しい条件がある。

図1に、コイ科の一種、ジャイアントダニオの紫外線感受錐体についての測定結果を示す。細胞膜に平行な波面の光に対する透過率と細胞膜に垂直な波面の光に対する透過率の比の常用対数を縦軸に、光波長を横軸に目盛ってある。光波長360nm付近にピークが見

られる。

このようにして、紫外線感受錐体の存在が疑いの無いものとなった。また、コイ科以外のメダカなどの魚類にも、紫外線感受錐体が広く分布していることが明らかになった。

魚類の紫外線知覚は、やはり私の発見になる魚類の赤外線知覚と共に、BBC制作映画「スーパーセンス」でも紹介され（NHK総合テレビ、平成2年8月8日放送、平成3年1月と4月に再放送）、大きな反響を呼んだ。

昆虫やハチドリの紫外線知覚については既に知られており、その生態学的意味も明らかにされている。しかし、魚類の紫外線知覚の生態学的意味は全くの謎である。また、魚類の場合、紫外、青、緑、赤という4色性色覚をもつ点が独特で、あたかも4次元世界のように一層解釈を難しくしている。

最後に、古い話をもう一つ。「解体新書」の中に、網膜について「万物の景は此を以て知るなり」とある。なんという名訳！ 明和8年（1771）、千住骨が原で腑分けに立ち会った前野良沢、杉田玄白、中川淳庵は「ターヘル・アナトミア」の解剖図の正確さに衝撃を受ける。翌日、前野良沢宅に集まった彼らは、オランダ語をほとんど知らないにもかかわらず翻訳を決意する。恐らく全員が興奮のあまり寝つかれず夜を明かしたであろう。彼らの熱い想いが時を超え伝わってくる。

以上、特定研究報告にかこつけて勝手な見聞を述べて来たが、昔の人の気概に習い、紫外線知覚、4色性色覚という我々が知覚できない世界の解読に挑戦し続けたいと思っている。

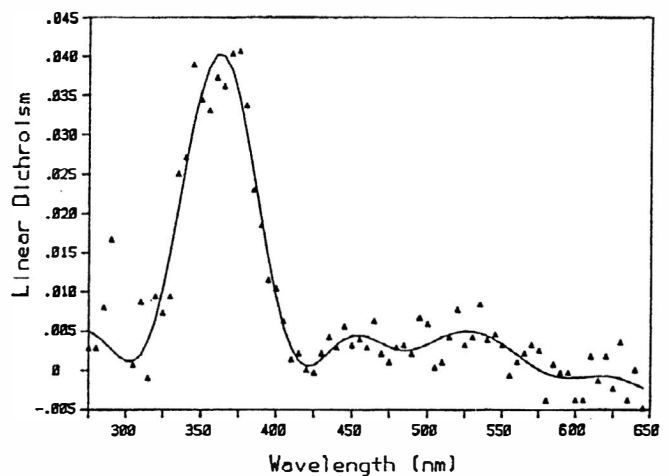


図1. 紫外線感受錐体の直線2色性スペクトル

Coming to Japan

外国人留学生 (理学部)

FRANCES ESPEDILLA EDILLO (フィリピン)



Coming to Japan was like a "ball" being thrown to me from somewhere else and excitingly I caught "it". It was indeed a surprise to be selected as one of the recipients for the 1990 Monbusho Scholarship

grant to Japan. It implies risk aside from saying a temporary "sayoonara" not only to my teaching post in the University of San Carlos, Cebu City, Philippines, but also to my friends and family. During the 3-hour flight from Manila Airport, Philippines to Osaka Airport, Japan, I tried myself to quickly learn my first Japanese words, such as: "sayoonara, ohayo gozaimasu, konnichiwa, konbanwa and doomo arigatoo gozaimasu".

Welcoming myself to this Land of the Cherry Blossoms was enhanced by the blooming beauty of the famous and lovely "sakura" for it was springtime upon my arrival. From springtime of last year to springtime of this year, life has taught me that man is indeed a "traveller". One of the amazing experiences that I have treasured as a "traveller" was the opportunity to meet other Monbusho scholars from different countries, such as: Albania, Australia, Bangladesh, Brazil, Egypt, Ghana, Indonesia, Iraq, Malaysia, Mexico, Nigeria, Sudan, Thailand, Tunisia and Turkey, when we studied together during the 6-month Japanese intensive course at Nagoya University, Nagoya from April - September 1990. It was certainly a varied group and a learning

experience of cultivating mutual respect for different cultures, aside from a headcracking familiarization with the Japanese language.

The four distinct seasons in Japan simply fascinate me while being here. The following lines speak of how much I cherish each season:

"Spring . . .

colorful and varied flowers bloom,
young and green buds grow,
a message of new life and hope it brings.

Summer . . .

loud and noisy cicadas sound,
the earth becomes hot and humid,
a message of endurance it shares.

Autumn . . .

green leaves turn to orange, yellow or red,
some trees become bald,
birds hoard food,
a message of preparation it brings
for life is a constant change.

Winter . . .

fabulous, dazzling white snow fall,
turning the earth fantastically white and pure,
a message of tranquility
in each man's heart it shares".

For any "travellers" there is always a place of destination. This "ball-like-thrown" opportunity for further studies has brought me to be here. I am presently a first year Masters' degree student in the Department of Biology, Toyama University. My field of research here is Endocrinology which is quite a new area of specialization for me and I suddenly find my-

self as a neophyte. Actually, since my appointment as a faculty member in my university in my country, my work has mainly been teaching basic biology to undergraduate students and involving some researches on medical and applied entomology and botany. Having now to do research work in a new field calls not only for hard work but also dedication to venture into a new area of study in a foreign land. Consequently, I hope to cultivate these requirements. Life in a foreign land is not that easy.

In my simple Japanese:

“Nihon de no watashi no atarashii seikatsu wa moohitotsu senmon o kangaeteiru koto to onaji desu. Desu kara, tsuyoi ketsui to iroirona kuni no bunka to shuukan ni tsuite, hiroi kokoro o motsu koto.”

On Japan's thrust towards internationalization, I would like to quote a portion from an article by Michael Cross in the New Scientist of

8 September 1990 :

“Over the past few years, Japan has become a land of opportunity to thousands of European and American researchers, who have joined the country's public and private research laboratories on fellowships and, occasionally, as permanent staff. Experiences are varied and startling. This influx of “gaijin”, a common Japanese abbreviation of the word “gaikokujin”, or foreigner, will grow as Japan's scientific influence strengthens, as its companies become more internationally minded and as political pressure mounts on the country to encourage a two-way flow of scientific know-how.”

Finally, I hope to gain not only academically but also culturally through interaction with the Japanese people and getting to know and understand their culture better.

学会報告

1990年度日本フランス語フランス文学会秋季大会について

教養部教授 ^{かつ}勝 ^の野 ^{りょう}良 ^{いち}一

「日本フランス語フランス文学会」の中部支部は、愛知、三重、岐阜、長野、石川、富山の各県在住の研究者によって構成されており、年二回の大会をもっていて、慣例として春季は名古屋で、秋季はその他の研究機関で催されている。この支部大会は全国大会とほぼ前後して行われ、全国大会とは一味ちがった親密（アンティム）な雰囲気が特徴といえよう。

北陸では数年前に金沢大学で行われたのがはじめてで、昨秋11月17日、富山大学教養部での支部大会は、したがって北陸地区では二度目の、そしてもちろん富山でははじめての開催ということになる。

大会は午後一時より25名の参加を得て教養部第201番教室で行われた。まず開催者を代表して大谷重彦富山大学教養部長の歓迎の挨拶、日本フランス語フラン

ス文学会会長川村克己氏の感謝の辞があり、続いて三つの研究発表と二つのフランス語教育に関する報告が行われた。

研究発表は、1. 名古屋外国語大学の小山美沙子氏の『Yvette—Maupassantの描いたjeune fille 像』、2. 南山大学の丸岡高弘氏の『ロマン主義と折衷主義』、愛知教育大学の岩淵邦子氏の『ユイスマンス“En rade”とアンナ・ムーニエ』の順であった。いずれも綿密な資料の整理と豊かな感性に裏付けられたレベルの高い研究発表であり、参加者に深い感銘を与えた。全国大会での研究発表が、近年とかく若手研究者の業績づくりの場となり勝ちなのに比して、支部大会でかかるハイレベルの研究成果が披露されるのは、ある意味では皮肉な現象といえるかもしれない。

休憩の後、南山大学の栗村道夫氏の『フランス語フランス文学の授業と視聴覚教材の使用について』、及び名古屋造形芸術大学の鈴木孝氏の『フランス語教育に関する一考察——学生のアンケートより——』の教育現場からの二つの報告があったが、ともに第二外国語（本来外国語学習に外部から序列がつけられるのは間違いであり、もし序列があるとすれば学習者各自の内的必然性に応じたものであるべきだろう。）としてのフランス語教育にたずさわる人の苦渋に充ちた発言であった。そこに富山大学教養部におけるイギリス語以外の外国語担当者の直面している共通の課題をかいまみた次第である。

午後5時過ぎ閉会、引き続き名鉄富山ホテルの和室で懇親会が行われ、和やかな歓談のひとつときを過ごした。

何分専任教師が1人であり、しかも私が専攻領域をフランス文学からイタリア文学へと移しているため、最新の学界の情勢に暗く、中部支部の会員諸氏に少なからぬ御迷惑をおかけしたことに恐縮している次第である。末尾になったが司会に当たられた早水洋太郎、内田洋、吉田正明、高橋秀雄の四氏に厚くお礼を申し上げたい。



大学院経済学研究科第1回入学式

経済学研究科長 よし はら せつ お 吉原節夫

経済学部を基礎とする富山大学大学院経済学研究科が、今年度新設され、その第1回入学式が去る4月24日、事務局大会議室で行われた。

同研究科は、地域・経済政策専攻と企業経営専攻の2専攻から成り、前者は経済学部の経済学科を基礎とした4大講座、後者は学部の経営学科および経営法学科を基礎とした6大講座で構成されている。専任教官37名、非常勤講師3名、合計40名の教員組織で発足した。

同研究科は、このように多くの担当教官を擁し、経済学、経営学、法学という社会科学の主要な分野で広範囲にかつ学際的に研究することができること、また

企業人・公務員・教員などの有職者が夜間に講義や研究指導を受けて修士課程を修了できるような昼夜開講制をとっていることが特徴となっている。昼夜開講制の修士課程は、全国の国立大学で次第にその数が増えており、今後も推進される情勢にある。

入学定員8名に対して、一般選抜では6名受験して3名が合格、社会人特別選抜では19名受験して14名が合格、外国人留学生特別選抜では4名受験して3名（定員外）が合格した。

平成4年度の経済学研究科の入学試験は、早くなくて平成3年10月に実施される（受験希望者は経済学部教務係に問い合わせしてほしい）。

授業科目及び担当教官一覧

(1) 地域・経済政策専攻

授 業 科 目	担 当 教 官
現代経済のモデル分析 特殊研究及び演習	教授 鱒 澤 晃 三
経済変動と安定化 "	助教授 佐 藤 良 一
経済社会構造分析 "	助教授 小 倉 利 丸
経済計画理論 "	助教授 長 久 良 一
西 欧 経 済 史 "	教授 武 暢 夫
日 本 経 済 史 "	教授 小 松 和 生
経済政策と地域産業構造論 "	教授 小 原 久 治
資 源 計 画 "	教授 増 田 信 彦
農業構造と地域開発 "	教授 中 藤 康 俊

授 業 科 目	担 当 教 官
東南アジアの経済開発 特殊研究及び演習	教授 藤 森 英 男
金融自由化と金融政策 "	教授 丹 羽 昇
財政の理論と政策 "	助教授 古 田 俊 吉
応用計量経済分析 "	教授 和 合 肇
労働のマクロ経済分析 "	教授 松 川 滋
労働政策 "	助教授 竹 川 慎 吾
労働者生活と政策 特殊研究	四日市大学教授 山 崎 清
比較社会学 特殊研究及び演習	助教授 飯 田 剛 史

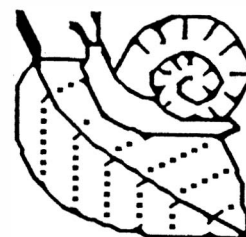
(2) 企業経営専攻

授 業 科 目	担 当 教 官
人 事 戦 略 特殊研究及び演習	助教授 澤 野 雅 彦
経 営 管 理 史 "	助教授 水 谷 内 徹 也

授 業 科 目	担 当 教 官
サービス経営教育論 特殊研究及び演習	教授 澤 田 利 夫
リスク・マネジメント "	教授 武 井 勲

授 業 科 目	担 当 教 官
財 務 管 理 論 特 殊 研 究 及 び 演 習	教授 田 中 祥 子
国 際 経 営 論 "	教授 森 蘭 英 輔
マ ー ケ テ ィ ン グ "	教授 小 島 満
労 務 管 理 論 "	教授 伊 藤 格 夫
生 産 管 理 論 "	助教授 太 田 雅 晴
オペレーションズ・リサーチ "	教授 菊 田 健 作
情 報 管 理 論 "	教授 中 島 信 之
経 営 情 報 処 理 特 殊 研 究	高岡短大助教授 小 郷 直 言
財 務 会 計 論 特 殊 研 究 及 び 演 習	教授 榎 原 英 夫
管 理 会 計 論 "	助教授 武 脇 誠

授 業 科 目	担 当 教 官
会 計 監 査 論 特 殊 研 究	金沢大学教授 大 野 浩
現 代 不 動 産 関 係 法 特 殊 研 究 及 び 演 習	教授 吉 原 節 夫
金 融 取 引 法 "	教授 大 西 武 士
企 業 組 織 法 "	教授 泉 田 榮 一
商 取 引 法 "	助教授 志津田 一 彦
経 済 法 "	教授 滝 川 敏 明
税 法 "	助教授 岩 崎 政 明
労 使 関 係 の 変 化 と 法 "	助教授 小 嶋 典 明
雇 用 形 態 の 多 様 化 と 法 "	助教授 唐 津 博



スキーはまず転び方から

—外国人留学生のためのスキー交流会を開催—

教養部助教授 別本明夫

教養部では、去る2月2日と3日の両日、大山町栗巣野スキー場において、外国人留学生のためのスキー交流会を開催した。この企画は、留学生諸君にスキーを通して富山の自然に親しんでいただき、また教職員との懇談の機会も設けて、勉学上の指導や生活面での助言をよりきめ細かくかつ効果的にする目的で、今回初めて実施されたものである。

初日は気温も低く、曇り空から時折雪の降る生憎の天候だったが、留学生たちは、道の両側に高く降り積もった雪や白一色の広いゲレンデに驚きの目をみはり、バスから降りるとさっそく雪玉を投げ合っただはしゃぎであった。

班に分かれての指導は、まず身体を斜め後方山側に倒す「正しく安全な転び方」の手ほどきから始まった。それが初心者に対し、ケガを避ける心得になると同時に、恐怖感を取り除いて心身の緊張をほぐす効果的導入にもなっているので、体育の先生方の賢明適切な指導ぶりに一同大いに敬服したものである。

ところが実際には、長いスキー板というものは厄介な代物で、どうも思い通りに動けないのである。立ち上がりようとして尻もちをつき、向きを変えようとして転倒し、止まろうとしてつんのめり、開脚登行のつもりがズルズル下がってしまい、靴底にこびり着いた雪のために脱落したスキー板を追いかけて走ることもあって、その度毎に、留学生たちのあいだから笑い声や歓声が上がった。とにかく最初は、転び方の練習ばかりであった。

しかし、若い人の身体は柔軟で順応性に富むから、こけつまろびつ、汗だく、雪まみれになってゲレンデを何度も登り下りするうち、目に見えて上達しているのである。何かのきっかけで身体自体がコツを会得すると、自在にバランスが取れるようになり、滑るスピードの刺激的な緊張感と、自然の広がりの中に風を切って飛び込んでいく爽快な解放感が、喜びとなって全身を貫いていくのである。

このスキーならではの苦勞と喜びを、共に分かちあったからこそであろう、宿に帰ってからの懇談会は、互いに旧知のように打ち解けた和やかな雰囲気になり、ややもすると隔りがちな留学生と教職員の関係も親密なものになって大いに盛り上がった。

翌日は晴天に恵まれ、また夜間に降り積もった雪はさらさらとした極上の雪で、全員が立山山麓の雄大な自然の素晴らしさを満喫したものである。指導も次第に高次の段階に進んで、直滑降からS字の滑降へ、なだらかなスロープから傾斜のある長いスロープへと移行した。キックターンの練習で足がもつれ、四苦八苦していた留学生も、いつの間にかすっかりマスターして、巧みに向きを変えられるようになり、午後には全員リフトに乗ることができた。

今回の交流会は、留学生諸君からもまた教官からも予想外の好評をいただいて、大成功であった。なお、会の運営にあたってさまざまな雑務を引き受けてくださった多数の事務官の方々に、この紙面をお借りして厚くお礼申し上げたい。とくに、昼食のために用意していただいた鍋汁が大変美味しかったことは、是非つけ加えておきたい。



学生部だより

◇平成3年度富山大学入学者について

平成3年度富山大学の入学者は、志願倍率6.43倍の難関を突破した1,537名の学部学生をはじめとして大

学院学生136名、専攻科学生1名、合計1,674名が決定しました。入学者の内訳は、次のとおりです。

学 部

学部	学 科 ・ 課 程	募 集 人 員	入学者数	入 学 者 内 訳				外国人 留学生	
				男	女	県 内	県 外		
人 文	人 文 学 科	95	108	44	64	41(31)	67(33)	1(1)	
	語 学 文 学 科	95	95	16	79	42(38)	53(41)	2(2)	
	計	190	203	60	143	83(69)	120(74)	3(3)	
教 育	小学校教員養成課程	100	100	19	81	51(42)	49(39)		
	中学校教員養成課程	50	50	23	27	23(14)	27(13)		
	養護学校教員養成課程	20	20	2	18	9(9)	11(9)		
	幼稚園教員養成課程	30	30	0	30	20(20)	10(10)		
	情報教育課程	40	40	14	26	21(16)	19(10)		
計	240	240	58	182	124(101)	116(81)			
経 済	昼間主 コース	経 済 学 科	159	159	127	32	52(20)	107(12)	3(2)
		経 営 学 科	124	128	87	41	40(22)	88(19)	11(3)
		経 営 法 学 科	102	106	81	25	29(14)	77(11)	
		小 計	385	393	295	98	121(56)	272(42)	14(5)
	夜間主 コース	経 済 学 科	20	20	16	4	9(0)	11(4)	
		経 営 学 科	20	20	15	5	14(2)	6(3)	
		経 営 法 学 科	20	21	16	5	12(3)	9(2)	
		小 計	60	61	47	14	35(5)	26(9)	
計	445	454	342	112	156(61)	298(51)			
理	数 学 学 科	53	53	38	15	19(9)	34(6)		
	物 理 学 科	47	35	35	30	5	8(4)	27(1)	
			12	12	10	2	3(1)	9(1)	
	化 学 学 科	43	43	24	19	15(9)	28(10)		
	生 物 学 科	35	35	16	19	10(8)	25(11)		
	地 球 学 科	32	27	28	19	9	4(3)	24(6)	
5			5	5	0	0	5(0)		
計	210	211	142	69	59(34)	152(35)			
工	電 子 情 報 工 学 科	132	132	127	5	27(0)	105(5)	4(1)	
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	101	101	100	1	28(1)	73(0)	4(0)	
	物 質 工 学 科	83	83	72	11	24(2)	59(9)	2(0)	
	化 学 生 物 工 学 科	86	86	64	22	20(7)	66(15)		
	計	402	402	363	39	99(10)	303(29)	10(1)	
合 計	1,487	1,510	965	545	521(275)	989(270)	27(9)		

注：（ ）内は女子で内数である。入学者の県内・県外別の数は出身高校等所在地で分類している。

大 学 院

研究科	専 攻	募 集 員 人	入学者数	入 学 者 内 訳				外国人 留学生
				男	女	県 内	県 外	
人研 文 科 学 科	日本・東洋文化専攻	5	6	3	3	1 (1)	5 (2)	1(1)
	西 洋 文 化 専 攻	5	5	2	3	3 (3)	2 (0)	1(1)
	計	10	11	5	6	4 (4)	7 (2)	2(2)
経研 済 学 科	地域・経済政策専攻	4	5	5	0	5 (0)	0	1(1)
	企 業 経 営 専 攻	4	12	9	3	8 (2)	4 (1)	2(0)
	計	8	17	14	3	13 (2)	4 (1)	3(1)
理 学 研 究 科	数 学 専 攻	8	3	3	0	1 (0)	2 (0)	
	物 理 学 専 攻	8	9	8	1	3 (1)	6 (0)	2(1)
	化 学 専 攻	10	10	8	2	5 (1)	5 (1)	
	生 物 学 専 攻	8	10	8	2	1 (0)	9 (2)	1(1)
	地 球 科 学 専 攻	8	3	3	0	1 (0)	2 (0)	
	計	42	35	30	5	11 (2)	24 (3)	3(2)
工 学 研 究 科	電 気 工 学 専 攻	10	6	6	0	3 (0)	3 (0)	1(0)
	工 業 化 学 専 攻	10	11	11	0	3 (0)	8 (0)	
	金 属 工 学 専 攻	8	13	13	0	4 (0)	9 (0)	
	機 械 工 学 専 攻	10	6	6	0	3 (0)	3 (0)	1(1)
	生 産 機 械 工 学 専 攻	8	6	5	1	3 (0)	3 (1)	
	化 学 工 学 専 攻	8	7	7	0	2 (0)	5 (0)	
	電 子 工 学 専 攻	8	14	14	0	5 (0)	9 (0)	
	計	62	63	62	1	23 (0)	40(1)	2(1)
合 計		122	126	111	15	51 (8)	75(7)	10(6)

専 攻 科

専 攻 科	募 集 員 人	入学者数	入 学 者 内 訳				外国人 留学生
			男	女	県 内	県 外	
教 育 専 攻 科	5	1	0	1	1 (1)	0	

注：（ ）内は女子で内数である。

◇就職協定について

来春卒業予定の皆さんは、将来の進路についていろいろお考えのこととおもいます。

さて、平成3年度大学及び高等専門学校卒業予定者に係る就職協定期日については、就職協定協議会において次のとおり決定されました。

8月1日 企業等の説明及び個別訪問開始

10月1日 採用内定開始

これらの期日は、皆さんの最終学年の学習にできる限り支障を与えず、また就職の機会均等・公平性を期するという観点から定められたものです。

◇平成2年度卒業生就職状況

平成3年5月1日現在

学部	項目 学科・課程 性別	卒業者数		就職希望者数		就職者数		就職未定者数		就職率(%)	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人文学部	人文学科	24	64	23	59	22	56	1	3	95.7	94.9
	文学部 文学科	16	84	16	79	12	71	4	8	75.0	89.9
	計	40	148	39	138	34	127	5	11	87.2	92.0
教育学部	小学校教員養成課程	27	114	25	113	24	101	1	12	96.0	89.4
	中学校教員養成課程	27	36	26	34	25	32	1	2	96.2	94.1
	養護学校教員養成課程	1	13	1	13	1	13			100	100
	幼稚園教員養成課程		25		25		25				100
	計	55	188	52	185	50	171	2	14	96.2	92.4
経済学部	経済学科	141	28	132	26	130	26	2		98.5	100
	経営学科	107	40	102	39	102	39			100	100
	経営法学科	111	23	102	20	100	20	2		98.0	100
	計	359	91	336	85	332	85	4		98.8	100
理学部	数学科	28	10	24	10	24	10			100	100
	物理学科	44	4	34	3	34	3			100	100
	化学科	29	14	19	11	19	11			100	100
	生物学科	19	13	11	9	11	9			100	100
	地球科学科	17	4	14	3	14	3			100	100
	計	137	45	102	36	102	36			100	100
工学部	電気工学科	49		43		43				100	
	工業化学科	37	2	26	2	26	2			100	100
	金属工学科	36		23		23				100	
	機械工学科	39		32		32				100	
	生産機械工学科	31	1	26		26				100	
	化学工学科	32	1	25	1	25	1			100	100
	電子工学科	53		39		39				100	
	計	277	4	214	3	214	3			100	100
合計		868	476	743	447	732	422	11	25	98.5	94.4

◇平成2年度卒業生産業別就職状況

平成3年5月1日現在

学部		人文学部	教育学部	経済学部	理学部	工学部	合計	学部		人文学部	教育学部	経済学部	理学部	工学部	合計
産業別	産業別														
農・林・漁業								不動産業	1		4				5
鉱業					1	1		運輸業	4	1	9	1	2	17	
建設業	7	5	14	2	2	30		通信業			4	1	4	9	
製	食料品・たばこ製造業	3		4	3	2	12	業	計	4	1	13	2	6	26
	繊維工業	1		1	1	3	6		電気・ガス・水道業			3	4	6	13
	衣服・その他の繊維製品	1					1		医療保健業		1				1
	出版・印刷・同関連産業	18	2	2	1		23		法務	1		3			4
	化学工業			2	19	20	41		宗教						
	石油製品・石炭製品								非営利的団体		1		1		2
	鉄鋼業				1	4	5		情報処理	29	32	73	37	17	188
	非鉄金属製造業	6		4	1	4	15		その他のサービス業	12	12	28	1	2	55
	金属製品製造業	1	3	9	1	7	21		計	42	46	104	39	19	250
	一般機械器具	3	1	5	7	29	45		教育	23	132	5	17		177
業	電気機械器具	12	1	25	13	62	113	公務	国家事務	6	8	10		1	25
	輸送用機械器具		1	8		26	35		地方事務	11	10	34	2	4	61
	精密機械器具	1		4	5	4	14		計	17	18	44	2	5	86
	その他の製造業	2	3	15	10	13	43	上記以外のもの			4	4		8	
	計	48	11	79	62	174	374	合計	161	221	417	138	217	1,154	
卸・小売業	卸売業	8		30	1	4	43	規模別就職先	大企業 { 従業員数 300人以上 }	81	39	283	99	188	600
	小売業	7	2	18	2		29			中企業 { 従業員数 30~299人 }	40	25	73	20	24
計	15	2	48	3	4	72	小企業 { 従業員数 29人以下 }		7		6	12			25
金融	銀行信託業	1		47	2	1			51	企業以外	33	151	49	19	5
融	証券業・商品取引業	2	2	12			16								
保	保険業		1	29			30								
業	その他の金融・保険業	1	3	11			15								
	計	4	6	99	2	1	112								

◇第43回北陸地区国立大学体育大会について

第43回北陸地区国立大学体育大会の競技種目・日程等が決定しました。

本体育大会は、北陸地区国立大学のスポーツの健全な発展と普及に寄与すると共に、相互の親睦を図ることを目的として例年実施されているもので、本年度は福井大学が当番校となり実施されます。

学生諸君には日頃の練習の成果を充分発揮し好成績を挙げることを期待されています。

第43回北陸地区国立大学体育大会実施要項

1. 名 称 第43回北陸地区国立大学体育大会
2. 主 催 福井大学、北陸地区国立大学体育連盟
3. 後 援 福井県、福井市、鯖江市

4. 期 日 等
5. 参加大学
6. 開 会 式
7. 閉 会 式
及び表彰
8. 大会本部

福井県教育委員会、福井市教育委員会、鯖江市教育委員会
(財)福井県体育協会
実施期日、競技種目等の詳細は下記「実施細目」のとおり
富山大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学、金沢大学、福井医科大学、福井大学
平成3年7月14日(日)午前9時から(福井大学第1体育館)
各種目別に各会場で行うものとする。
福井大学学生課

第43回北陸地区国立大学体育大会実施細目

種 目	期 日	開始時刻	競 技 会 場	出場選手数	競 技 方 法 及 び 小 種 目
陸上競技 男・女	7月14日(日)	10:00	福井運動公園陸上競技場	(1) 1種目2名以内(リレーを除く)ただし、1名のオープン参加を認める。 (2) 1人の出場種目は、3種目以内とする。(リレーを除く)	男子(トラック) 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 5000m, 110mH, 400mH, 3000mSC, 400mR, 1600mR (フィールド) 走幅跳、三段跳、走高跳、棒高跳、円盤投、砲丸投、槍投、ハンマー投 女子(トラック) 100m, 200m, 400m, 800m, 1000mH, 400mR (フィールド) オープン競技として400mH、走幅跳、走高跳、円盤投、砲丸投、槍投
水 泳	7月14日(日)	10:00	福井運動公園県営プール	(1) 1種目3名以内 (2) 1人の出場種目は、3種目以内(リレーを除く)	男子 自由形 50m, 100m, 200m, 400m, 800m 背 泳 100m, 200m 平 泳 100m, 200m バタフライ 100m, 200m メドレーリレー 400m リレー 200m, 800m 個人メドレー 200m, 400m 女子 自由形 50m, 100m, 200m, 400m 背 泳 100m, 200m 平 泳 100m, 200m バタフライ 50m, 100m メドレーリレー 400m リレー 200m, 400m 個人メドレー 200m
野 球 男	7月14日(日) (雨天の場合 15日に延期)	9:00	福井運動公園野球場	30名以内	リーグ戦
準硬式野球	7月13日(土) 7月14日(日) (雨天の場合 15日まで順延)	13:00 9:00	福井医科大学野球場	25名以内	トーナメント戦 3位決定戦

種 目	期 日	開始時刻	競 技 会 場	出場選手数	競 技 方 法 及 び 小 種 目
庭 球 男・女	7月13日(土) 7月14日(日) (雨天の場 15日まで順延)	9:00 開会式 終了後	福井大学屋外球技コ ート	男子 15名以内 女子 7名以内	団体(トーナメント戦) 男子4複7単 “(トーナメント戦) 女子2複3単
軟式庭球 ”	7月14日(日) (雨天の場 15日に延期)	9:00	福井市西公園庭球場	男子 30名以内 女子 20名以内	団体(点取りリーグ戦) { 男子5チーム9セット 女子3チーム9セット 個人(トナメ戦) { 男子5チーム以内9セット 女子10チーム以内9セット
バスケット ボール ”	7月14日(日)	10:00	福井運動公園体育館	男女共20名以内	トーナメント戦
バレーボール ”	7月14日(日)	10:00	三国町民体育館	” 12名以内	トーナメント戦 3セット
サッカー 男	7月7日(日) 7月14日(日)	10:00 10:00	福井医科大学グラウンド	20名以内	トーナメント戦(35-5-35)
ラグビー・ フットボール ”	6月16日(日) 6月23日(日) 6月30日(日)	10:00 10:00 10:00	福井大学運動場	25名以内	トーナメント戦(30-5-30)
卓 球 男・女	7月14日(日)	9:00	福井大学附属 中学校体育館	男子 25名以内 女子 12名以内	団体(リーグ戦) 男子4複7単 女子(予選リーグ戦, 決勝トーナメント戦) 2複5単 個人(トーナメント戦・シングルスのみ) 男子25名以内, 女子12名以内
バドミントン ”	7月7日(日) 7月13日(土) 7月14日(日)	9:00 9:00 開会 終了後	福井大学第1体育館	男子 16名以内 女子 10名以内	団体(点取りリーグ戦) 男子3複4単 女子2複3単 個人(トーナメント戦) シングルス 男子12名以内, 女子10名以内 ダブルス 男子6組以内, 女子5組以内
柔 道 男	7月14日(日)	9:00	福井県立武道館	17名以内	団体(点取りトーナメント戦) 3位決定戦 個人(トーナメント戦) 4名以内
剣 道 男・女	6月30日(日)	9:00	福井大学第一体育館	男子 28名以内 女子 12名以内	団体 男子(予選リーグ戦, 決勝トナメ戦) 1チーム7名(登録9名以内) 1校2チーム以内 女子(リーグ戦) 5名(登録7名以内) 個人(トーナメント戦) 男子10名以内, 女子5名以内
体 操 ”	7月14日(日)	10:00	鯖江市立待体育館	男子 20名以内 女子 10名以内	男子 床運動・鞍馬・平行棒・吊輪・跳馬 鉄棒 女子 床運動・段違平行棒・平均台・跳馬 新体操(エキジビジョン)
ハンドボール ”	7月14日(日)	10:00	北陸電力体育館	男子 15名以内	トーナメント戦 3位決定戦(25-10-25) 女子は, 金沢大学と富山大学のエキジビジョン
ヨ ッ ト ”	7月13日(土) 14日(日)	9:00	三国ヨットハーバー	20名以内	総合と種目別(スナイプ, 470級) スナイプ 級2艇制, 470級2艇制

種 目	期 日	開始時刻	競 技 会 場	出場選手数	競 技 方 法 及 び 小 種 目
空 手 道 男	7月14日(日)	10:00	福井医科大学体育館	20名以内	団体 自由組手(5組)リーグ戦 各試合2分3本勝負 個人 自由組手トーナメント戦 各校4名以内2分3本勝負 (引き分けの時 2分延長後判定)
弓 道 男・女	7月13日(土) 7月14日(日)	9:00 9:00	福井県立武道館	男子 14名以内 女子 6名以内	団体 男子8名(1人20射計160射) 女子4名(1人20射計80射) 個人 団体戦出場者及び男女8名 (20射中的中数の多い者)
自 動 車 "	7月14日(日)	9:00	北陸自動車学校	団体 各種目2名 個人 各種目出場者2名以内	フィギアレース (1) 軽四輪(660cc以下) (2) 小型トラック (4ナンバー・ハイパータイプ) (3) 小型乗用車 (4) 普通乗用車
創 作 舞 踊 "	7月14日(日)	11:00	福井市民福祉会館		公開演技
少林寺拳法 "	7月14日(日)	10:00	福井大学附属小学校 体育館		公開演武(団体演武・組演武・個人乱捕りリーグ戦)
合 気 道 "	7月13日(土)	14:00	富山大学武道場		公開演武(組演武)
アメリカンフットボール 男	6月30日(日)	14:00	金沢大学運動場		金沢大学と福井大学のエキジビション

◇平成3年度前期授業料免除について

平成3年度前期授業料の免除については、先に開催された授業料等減免選考委員会の選考を経て、下記のとおりとなった。

区 分	出 願 者	全 額 免 除	半 額 免 除	不 許 可	文 部 省 申 請
学 部	4 3 3	3 0 6	1 2 0	7	0
大 学 院	3 1	2 3	6	2	0
私費外国人留学生	5 1	0	0	1	5 0
計	5 1 5	3 2 9	1 2 6	1 0	5 0

◇平成3年度 学年暦

入 学 式	平成3年4月10日(水)
新入生オリエンテーション	平成3年4月10日(水) ～ 12日(金)
本学創立記念日	平成3年5月31日(金)
卒業式・修了式	平成4年3月25日(水)

学 期	授 業 関 係 等	教 養 部		人 文 学 部	教 育 学 部
		全学部(夜間主 コースを除く)	経 済 学 部 夜間主コース		
前 学 期	授 業	4月11日(木) 7月17日(水)	4月11日(木) 7月17日(水)	4月15日(月) 7月13日(土)	4月8日(月) 7月13日(土)
	夏季休業	7月18日(木) 9月1日(日)	7月18日(木) 9月1日(日)	7月15日(月) 8月31日(土)	7月25日(木) 9月1日(日)
	授 業	9月2日(月) 9月7日(土)	9月2日(月) 9月7日(土)	9月2日(月) 9月14日(土)	
	期末試験	9月12日(木) 9月25日(水)	9月17日(火) 9月24日(火)		7月18日(木) 7月24日(水)
後 学 期	授 業	10月14日(月) 12月21日(土)	10月14日(月) 12月21日(土)	10月14日(月) 12月14日(土)	10月21日(月) 12月21日(土)
	冬季休業	12月22日(日) 1月6日(月)	12月22日(日) 1月6日(月)	12月16日(月) 1月4日(土)	12月22日(日) 1月5日(日)
	授 業	1月7日(火) 2月10日(月)	1月7日(火) 2月10日(月)	1月6日(月) 2月15日(土)	1月6日(月) 2月8日(土)
	期末試験	2月14日(金) 2月22日(土)	2月14日(金) 2月20日(木)		2月14日(金) 2月20日(木)
備 考					教育実習 9月2日(月)～ 10月19日(土)

学 期	授業関係等	経済学部	理 学 部	工 学 部
		昼間主コース 夜間主コース		
前 学 期	授 業	4月8日(月) 7月13日(土)	4月15日(月) 7月13日(土)	4月15日(月) 7月15日(月)
	夏季休業	7月15日(月) 8月31日(土)	7月15日(月) 8月31日(土)	7月16日(火) 8月31日(土)
	授 業	9月2日(月) 9月7日(土)	9月2日(月) 9月14日(土)	9月2日(月) 9月21日(土)
	期末試験	9月11日(水) 9月19日(木)		
後 学 期	授 業	10月14日(月) 12月21日(土)	10月14日(月) 12月21日(土)	10月14日(月) 12月21日(土)
	冬季休業	12月24日(火) 1月6日(月)	12月24日(火) 1月11日(土)	12月24日(火) 1月7日(火)
	授 業	1月7日(火) 2月10日(月)	1月13日(月) 2月15日(土)	1月8日(水) 2月18日(火)
	期末試験	2月14日(金) 2月21日(金)		

保健管理センターだより

～友達を大切に～

助 教 授 ^{たか} ^お 高 尾 テルノ
(カウンセラー)

◆その1

- ・先生！友達を作りたいのですが、どうすれば作れますか？
- ・どんな人と友達になれば、自分を裏切らないで信頼できる友達になれるか？
- ・お母さんが今まで友達を選んでくれていたので、今どうして友達を選ばよいかわからない——。
- ・高校時代の友達が、他大学へ進学してしまったので話し相手が欲しい——等友人を求めて来所する学生。
- ・クラブ、サークルでの先輩後輩関係。
- ・レギュラーからはずされた。
- ・リーダーとして、部員のまとめと責任——。
- ・アルバイト先で、店長とのトラブル。
- ・下宿先で、同宿者とのトラブル。
- ・卒業生の就職先でのトラブル——等、人間関係、

対人関係の問題で来所する学生が年々僅かであるが増えてきている。

一方、自分から友達を拒否 or 避けている学生もいる。

例えば・友達を欲しいとは思わない。煩わしい、お金がかかり、付き合っている時間がない。

- ・大学へは、勉強に来ているのであって、友達と遊んでいる暇などない。
- ・みんな、何をくだらない話をしているのだろうか、そんな時間があるのなら読書すれば良いのに。
- ・友達がいなくて淋しいと思ったことはない。テレビがあり、ファミコン、ラジカセがある～1.5の時代～
- ・他人に気遣いするのがいやだ。
- ・他人のご機嫌を伺うのは、真っ平ご免！
- ・自分のやりたいことを優先したい。一度の人生だ

から他人のために拘束されたり、妥協するのはいやだ——等自己中心型で自分にとって都合よく生きるのが最もよい考え方とする独善的學生がや多く、対人関係の問題で来所する學生の多くは、課外活動に加入していない。

人間関係、対人関係のトラブルは、學生時代だけでなく、いつの世にもあることで、社会人になっても、職場や家庭でのトラブルがあり、時には、ストレスの要因にもなる。

この様なトラブルを少しでも解消する（和らげる）には、先ず自己を知ることではなからうか。

自分の顔や容姿を見るには、鏡を見ればよい。自己を知るには鑑（他者）を見るがよい。

他者を媒介として自己がある。

他者を知り、理解することによって自己を知る（自己理解）ことが出来、多くの他者に出会うことによって、自己理解が深まるのではなからうか。

例えば、育った背景や生活環境、価値観、考え方等諸々の因子・要素を含有した人間を数字の「5」で表し「 $2 + 3 = 5$ 」をIと仮定しよう。友人、知人の育った背景、生活環境、価値観、考え方がIと全く同じであれば、意気投合して直ぐ話し相手になり友達になれるだろう。しかしそれは、皆無に近い。周辺には「 $3 + 2 = 5$ 」「 $1 + 4 = 5$ 」「 $6 - 1 = 5$ 」その他諸々の考え方をする人もいるだろう。

Iは、「 $2 + 3 = 5$ 」が絶対のものとして固執し、他を疎外し、変人としてフィーリングが合わない、インスピレーションが合わない、嫌いなタイプだ等主観的な好みで、避けたり、無視したりしていないだろうか。

しかし、他の諸々の人達は、Iに無いものを持っている。ここでIは、他者は、自分に無い何かを持っていることに気付き、他者を尊敬し、刺激を受け、学ぶ気持ちでいれば、他者を恨んだり、憎悪したり、避けることはしないだろう。

「友人は我が師であり、親である」

私達人間は、一人では生きていけない。他者の支えや援助があって、今を生活しているので、未来に生きて行くのである。～我々全て、共命の鳥なのである～

今、あなたの傍にいる友人、知人、同僚を大切に、多くの友達が出来よう心掛けよう。

（注）共命鳥——一身二頭二心。生命を共にしている美声の鳥。

◆その2

富山大学平成元年度入学生1,062名（無作為）の生活意識調査結果から、対人関係、友人関係に関連する項目のみ抜粋すると、次の様な結果が表れた。

A 悩みの有無

悩みが全くない（25.3%）、悩みがある（74.7%）
% N 793)

B 悩みの内容（14項目の中）

友人関係、恋愛問題（19.6%）

C 悩みの解決方法（8項目中）

ひとりで考える（50.7%）友人に相談する（38.6%）

D 親友の有無

同性でいる（59.2%）異性でいる（1.7%）

両方共いる（18.3%）いない（20.8%）

E 対人関係で難しく感じているのは

親子関係（6.0%）兄弟姉妹関係（0.7%）友人関係（22.4%）

異性関係（22.7%）先・後輩関係（9.8%）先生との関係（0.9%）

感じたことなし（35.6%）その他（1.9%）

F 日常生活上の行動・習慣として人との交際が出来なくなるのはとてもやりきれない～に対して肯定しているのは、81.9%（男子76.7%、女子89.6%）で男子よりも女子に多かった。

G 自分の方からすすんで友達をつくっていくのは、56.9%（男子53.1%、女子62.4%）。

H 孤独を強く感じたりすることがある。 44.0%（男子41.5%、女子47.5%）であった。

上記結果から、Dの親友のいない約21%（実際には数字がもっと多いと予想される）のことからセンターとして、いろいろの機会を設けて何らかの援助をして行きたいと思っている。～語らいの場、合宿セミナーなど～

またF、Gの質問に対して男子よりも女子に%が高いことは頷けるが、Hの孤独を強く感ずるに対して、女子の%が高いことにやや驚ろく。しかし男性は一般に、人生について積極的であり、本能的に切り開いていかねばならない、困難を乗り越えるだけの気力を持っており、女性は、やや家庭的、消極的面がある故の現れかとも考えられる。

キャンパスの草本誌 (7)

ニワゼキショウ (Sisyrinchium atlanticum Bickn.) アヤメ科

—手入れのよい庭に生える—

ニワゼキショウは、北アメリカ原産の帰化植物で、明治の中ごろ渡来したとされている。今では全国的に広がり、庭や芝地などで見られる。名前は細長い葉の形をサトイモ科のセキショウに見立ててつけた。

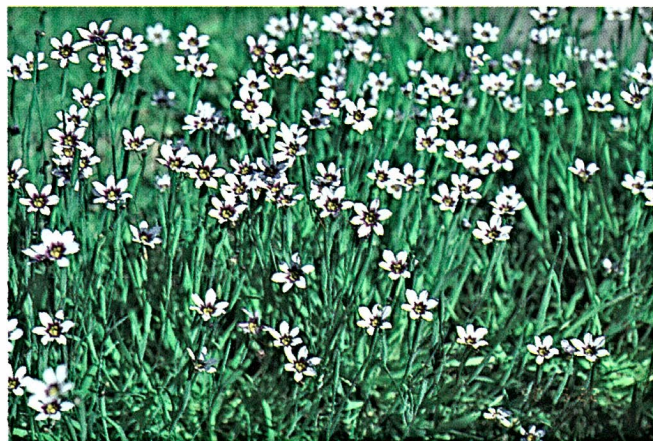
草丈は低く15cm内外、花も小さいが、ハナショウブと同様にアヤメ科の基本を備えている。花被片は6個で、めしべの先が3裂し、おしべは3個ある。花期は5～6月。花茎の先の苞葉から、白色また淡紅紫色の小花をつける。おしべは下部で球形に合生し、表面に黄色い腺毛がある。

茎は扁平で両側に狭い翼がある。葉も扁平で細長い。多くの葉は茎の脚部で抱き合って剣状にまっすぐのびる。葉の基部はアヤメやハナショウブのように、断面がV字形の鞘状をしている。この内側が葉の表で、外側が裏である。ところで葉は基部から遠ざかると、内側の表どうしがくっついて表がなくなる。それでニワゼキショウの葉は、両面共、葉の裏ということになる。このような葉を単面葉と呼んでいる。

本学キャンパスでは本通り両側の芝地や、中庭などで数多く見られる。ある教官が、「花が可愛い

で家の庭に一株移植したところ、はびこり過ぎて、今では絶やすのに苦労している。」とおっしゃった。これを別の見方で見ると、それだけ庭の手入れがよい証拠だといえる。定期的な除草や、芝生の手入れは、ほかの雑草を抑えるが、一方ではニワゼキショウの生育を助ける。名前のニワ(庭)が示すように、ニワゼキショウは適当に人の干渉を受けるところで生育する。

教育学部教授 なが い しん りゅう 長井真隆



ニワゼキショウの花の群れ

<<<◆ 学園ニュース編集委員 ◆>>>

学生部長 増田信彦
人文学部 河村貞枝
" 大工原ちなみ
教育学部 呉羽長
" 原田嘉昭
経済学部 伊藤格夫
" 松井隆幸

理学部 広岡公夫
" 鳴橋直弘
工学部 島崎長一郎
" 杉本益規
教養部 高安和子
" 山本孝一